

第4章 30歳代の相談ネットワークの諸相——現在と過去

第1節 はじめに

本章では、30代の男女が有している人間関係——ソーシャル・ネットワーク——に関して、特に相談ネットワーク（悩みの相談相手）の状況を多面的に検討することを試みる。

ソーシャル・ネットワークに注目するのは、学校から職業への移行過程や非典型雇用から典型雇用への移行過程など、仕事をめぐる若年層の移行過程に関して、その実態を「包括的」に探ること、すなわち領域横断的かつ対象を全域的にカバーして問題を把握することが必要だという問題意識に基づいている¹。そのような意味で包括的な把握をめざすとき、若年層のソーシャル・ネットワークに注目することは、就業という側面にとどまらずに、若年層が生きる“世界”のあり方をより全域的かつ具体的な形で切り出すことにつながりうると考えられる。なお、若年層が取り結んでいる社会関係は多様なものであるが、ここでは特に自らの悩みを相談する相手を取り上げる。つまり、ここでソーシャル・ネットワークという表現で想定しているのは、若者の多様なパーソナル・ネットワークのうちの相談ネットワークである。

若年層といっても、今回とりあげるのは30代の男女である。若年層の人生の歩み方が変化していく中で、30代を若年層に含めて考えること自体は、もう特殊な立場ではないといえるだろう。「20代という期間が全体としてキャリア探索期ないしキャリア形成期になった」（久木元 2012: 149）という状況で、その後続く30代という期間は、いわばキャリアの確立期となっているとみなされるかもしれない。しかし、そもそもキャリアの「確立」なるものが明確に定義できなくなりつつある中で、むしろ30代という期間は、20代以上に抜き差しならない形で将来の不透明さに直面せざるをえない時期となっているともいえるだろう（毎日新聞「リアル30's」取材班 2012）。そうした、30代という時期の微妙さを常に念頭に置きながら、以下では考察を進めていくことになる。

本章で具体的に試みるのは、30代の男女の相談ネットワークについての調査結果を概観しつつ、特に就業状況と相談ネットワークのあり方の関連について検討することである。具体的には、若年層の就業状況（具体的には、正社員であること／非典型雇用であること）が、彼ら／彼女らが有している相談ネットワークのあり方をどう規定している／いないのかについて探る。そのことから、若年層の移行に関する具体的な支援の方策を考えることにつながる知見を得ることをめざす。加えて、現在の相談ネットワークのあり方を規定しているものには、過去の相談の経験もあるのではないかという考えから、過去の相談経験と現在の相談ネットワークの関連についても分析を加えることにしたい。

ここで直接分析の対象とするのは、2011年7月に労働政策研究・研修機構が実施した、東

¹ この問題意識は、2006年の調査以降一貫したものである。

京都（島嶼部を除く）の30～39歳の男女2000人（専業主婦（夫）を除く）を対象とする、「30代のワークスタイル調査」のデータである²。以下では、この調査を「2011年30代調査」または略して「30代調査」と呼ぶことにする。

なお、この調査において相談ネットワークの分析に際して用いた質問項目は、同機構によって実施された「第2回 若者のワークスタイル調査」（2006年2月に実施、以下「2006年調査」）、および「第3回 若者のワークスタイル調査」（2011年2～3月に実施、以下「2011年20代調査」または「20代調査」）と同じ設計のものである。これらの調査の結果は比較可能であるので、以下の考察においても適宜比較を加えながら進めていくことにしたい³。また、同一の質問項目を用いて分析し、分析に際しての問題意識も多くの部分で共通していることもあって、以下では必要に応じて、2006年調査の報告論文（久木元 2006, 2007）や2011年20代調査の報告論文（久木元 2012）で記載した説明や文章・表現などを再度用いることがあるので、付記しておく。

第2節 質問項目の設計

議論に進む前に、相談ネットワークの情報を得るために用いた質問項目についてふれておく。上述したとおり、このような質問項目の設計は、2006年調査および2011年20代調査と同一である。

質問文は、「あなたは現在、a～dのことについて悩みを持っていますか。もし悩みを持っている場合には相談する相手について、あてはまる番号すべてに○をつけて下さい」というものであり、「a 今の自分の仕事や働き方について」「b これからの生き方や働き方について」「c 人間関係について」「d 経済的な問題（お金のこと）について」のそれぞれについて、相談する相手を複数回答で選んでもらうという形である。選択肢は、「悩みはない」「親・保護者」「兄弟姉妹」「職場やバイト先の上司」「職場やバイト先の友人・同僚」「学校で知り合った友人」「学校の先生・職員・相談員」「趣味をともにする友人」「恋人・配偶者」「カウンセラー等の専門家や公的な支援機関」「その他」「誰もいない」である。

この質問項目によって、悩みがある場合の相談相手の選択状況がわかり、かつ複数回答にしているため、相談相手の具体的な広がりや多様性についてもとらえることができる。しかし、あくまでも個々の悩みに対して具体的に相談相手をたずねる形をとっているため、そもそも悩みがない回答者の相談ネットワークはとらえることができないという限界がある⁴。また、調査票の紙幅の関係もあり、相談ネットワークの規模（人数）や連絡頻度、複数の相談

² 詳細は序章を参照のこと。

³ なお、「第2回 若者のワークスタイル調査」の対象者は、東京都（島嶼部を除く）の18～29歳の男女2000人（正規課程の学生、専業主婦を除く）であった。「第2回 若者のワークスタイル調査」の対象者は、20～29歳の2011年の第3回調査と比べて、18～19歳の男女も対象者となっている点が異なっている。

⁴ ただし後述するように、4つの悩みのいずれについても約6割以上の人が「悩みがある」と回答しており、少数の人の相談ネットワークのデータしか得られていないわけではない。

相手間の密度など、ネットワークそのものの特性について踏み込んでたずねることはできていない。そのこともあって、本章は記述統計的な分析が中心となっていることも、あらかじめ述べておく。

ところで、これまでの調査のデータに関して、この質問項目の回答を分析した結果、基調として浮かび上がってきたのは次のような点であった（久木元 2006, 2007, 2012）。すなわち、（1）若者にとって職場とは、単なる仕事の環境というだけでなく、さまざまな悩みについての相談ネットワークが供給される場としても機能していること、（2）非典型雇用ないし無業であることは、相談ネットワークの重要な供給源である職場関係の人が自らのネットワークに加わりにくいこと——いわば、世界が広がりにくいということ——を意味すること、（3）非典型雇用や無業であることによって、多方向的でない形の小規模で限定的な相談ネットワークが帰結されやすいこと、の3点である。そこで、以下で進める2011年30代調査のデータの分析に際しても、この諸点が見出せるのかを明らかにすることをめざして、考察を進めていくことにしたい。

第3節 相談ネットワークの状況

では、2011年30代調査の結果から、相談ネットワークの状況を具体的にみていくことにしよう。この節では、まず結果の概観を行うことにする。

図表4-1 「悩みがある」と回答した人の割合（％）

	全体	男性	女性	n(人: 男性)	n(人: 女性)	
今の自分の仕事や働き方について	63.5	61.7	65.4	1017	954	p<.05
これからの生き方や働き方について	69.5	64.3	75.1	1015	950	p<.001
人間関係について	58.0	52.4	64.0	1016	949	p<.001
経済的な問題(お金のこと)について	65.4	60.9	70.3	1017	945	p<.001

まず相談ネットワークの前提となる悩みの有無についてである（図表4-1）。a～dの4つの悩み（以下、順に「今の仕事」「これからの生き方」「人間関係」「経済的問題」とする）について「悩みがある」と回答した人の割合は、それぞれ男性で61.7%、64.3%、52.4%、60.9%であり、女性で65.4%、75.1%、64.0%、70.3%であった。4つの悩みのいずれについても、全体では約6割以上の方が「悩みがある」と回答しており、また男性より女性の方が悩みのある人が有意に多くなっている。この傾向は2011年20代調査でもみられたが、「今の仕事」「これからの生き方」「人間関係」の3つの悩みについては、全体・男性のみ・女性のみいずれについてもその割合は30代調査の方が少なくなっている。「経済的問題」についてはほぼ同じであった。

図表 4-2 「悩みがある」と回答した人の割合：配偶状態別（％）

		全体	無配偶	有配偶	n(人： 無配偶)	n(人： 有配偶)	
今の自分の仕事や働き方について	男性	61.3	60.5	61.7	324	671	n.s.
	女性	65.6	72.0	62.6	289	637	p<.01
これからの生き方や働き方について	男性	64.0	62.0	65.0	324	669	n.s.
	女性	75.2	79.5	73.2	288	635	p<.05
人間関係について	男性	52.0	51.2	52.4	324	670	n.s.
	女性	64.1	68.6	62.0	287	634	p<.05
経済的な問題(お金のこと)について	男性	60.6	52.8	64.4	324	671	p<.001
	女性	70.6	69.7	71.0	287	630	n.s.

男女それぞれについて配偶状態別にみると⁵（図表 4-2）、男性の場合は「経済的問題」について有配偶の方が悩みのある人が多かったが、他の3つについては、配偶状態による有意な差はみられなかった。女性の場合はちょうど逆で、「経済的問題」以外の3つで、無配偶の方が悩みのある人が有意に多かった。次に、男女それぞれについて現職の就業状況（従業上の地位）による差を調べた（図表 4-3）。4つのうち3つの悩みについて、ケース数の少ない「無業、その他」での悩みがある人の割合の高さが目立つ。また正社員の女性での悩みがある人の割合が高いことも確認できる。

図表 4-3 「悩みがある」と回答した人の割合：現在の就業状況別（％）

		正社員 (公務員 含む)	非典型雇 用	自営・家 業	無業、そ の他	n(人： 正社員)	n(人： パート・契 約)	n(人： 自営)	n(人： 失 業・無業)	
今の自分の仕事や働き方について	男性	60.8	67.4	58.7	94.7	757	86	155	19	p<.05
	女性	72.1	62.9	58.2	92.9	287	512	141	14	
これからの生き方や働き方について	男性	64.1	67.4	62.2	78.9	754	86	156	19	n.s.
	女性	81.1	72.0	71.1	100.0	286	508	142	14	
人間関係について	男性	52.8	52.3	51.0	47.4	756	86	155	19	n.s.
	女性	71.5	61.2	59.6	57.1	284	510	141	14	p<.05
経済的な問題(お金のこと)について	男性	59.1	64.0	64.7	84.2	756	86	156	19	p<.10
	女性	67.3	72.9	65.5	85.7	284	505	124	14	

注：十分なケース数がある場合のみ検定を行っている

最後に、学歴別にみた場合、2011年20代調査では、男女とも学歴が高いほど、また卒業生より中退者ほど、悩みのある人の割合が高くなっている傾向がみられたが、30代調査ではその傾向はやや曖昧になっている（図表 4-4）。ケース数が少ないため注意が必要ではあるが、高等教育中退者で悩みのある人の割合が高いことも確認できる。

⁵ この調査では、未婚の人と離別・死別して現在独身の人の区別ができないため、ここでは既婚／未婚ではなく有配偶／無配偶という表現を用いる。

図表 4-4 「悩みがある」と回答した人の割合：学歴別（％）

		高卒	専門卒	短大・高専卒	大学・大学院卒	中卒・高校中退	高等教育中退	
今の自分の仕事や働き方について	男性	58.5	64.2	60.9	62.1	58.9	72.5	n.s.
	女性	54.9	67.7	70.0	71.9	56.4	68.0	p<.01
これからの生き方や働き方について	男性	58.8	68.9	54.5	66.6	53.6	74.5	p<.05
	女性	64.3	74.7	79.7	82.7	69.2	79.2	p<.001
人間関係について	男性	47.6	59.2	52.2	51.9	50.0	62.7	n.s.
	女性	56.0	63.8	70.6	67.2	53.8	76.0	p<.05
経済的な問題(お金のこと)について	男性	57.2	69.4	60.9	57.2	62.5	78.4	p<.01
	女性	67.0	73.9	69.2	69.1	71.8	80.0	n.s.

		n(人:高卒)	n(人:専門卒)	n(人:短大・高専卒)	n(人:大学・大学院卒)	n(人:中卒・高校中退)	n(人:高等教育中退)
今の自分の仕事や働き方について	男性	229	193	23	446	56	51
	女性	237	235	160	249	39	25
これからの生き方や働き方について	男性	228	193	22	446	56	51
	女性	235	237	158	248	39	24
人間関係について	男性	229	191	23	447	56	51
	女性	234	235	160	247	39	25
経済的な問題(お金のこと)について	男性	229	193	23	446	56	51
	女性	233	234	159	246	39	25

次に、悩みがある人の相談ネットワークについて、具体的な検討を行う。

まず、4つの悩みそれぞれについて、誰を相談相手として選んでいるかを概観する（図表4-5）。20代調査の結果と比較して顕著なのは、恋人・配偶者の割合の突出した大きさである。これは20代に比べて、30代では有配偶の回答者の割合が大きく増えていることを反映したものであり、これと呼応する形で、他の相談相手を選ぶ割合は、20代に比べて軒並み小さい割合となっている。20代に比べて特に小さくなっているのは、親や兄弟姉妹などの家族関係と「学校で知り合った友人」で、20代から30代になり家族関係や学校時代の人間関係の比重が下がっていることを示している。全体として、20代調査の結果と同様に、相談相手として選ばれているのは家族関係・職場関係・友人・配偶者などにほぼ集約されており、それ以外の立場（「学校の先生・職員・相談員」や「カウンセラー等の専門家や公的な支援機関」）の比重は小さい。また、「誰もいない」を選ぶ人の割合は、どの悩みについても男女とも20代調査とおおむね同じぐらいの割合になっており、30代に関しても、悩みはあるのに相談相手が誰もいないという人が、どの悩みにも一定の割合で存在するようになっている。

男女別にみると、4つの悩みに共通して、「親・保護者」「兄弟姉妹」を選ぶ割合は女性の方が男性よりも高く、「職場やバイト先の上司」「誰もいない」を選ぶ割合は男性の方が女性よりも高い。これらは20代の場合と同じ傾向である。他方で、20代の結果と異なった傾向が確認できるのは、「恋人・配偶者」に関してで、20代では女性の方が男性よりも高い割合だったが、30代ではおおむね有意差がみられなくなっている。

図表 4-5 悩みの相談相手の選択割合 (%)

		親・保護者	兄弟姉妹	職場やバイト先の上司	職場やバイト先の友人・同僚	学校で知り合った友人	学校の先生・職員・相談員	趣味をとる友人	恋人・配偶者	専門家や公的な支援機関	その他	誰もいない	n(人)
今の自分の仕事や働き方について	男性	23.8	7.0	23.3	34.0	16.7	0.3	13.2	55.8	1.3	4.8	7.7	627
	女性	37.8	15.5	16.7	37.7	20.2	0.8	17.5	60.3	2.1	5.6	3.8	624
		***	***	**				*				**	
これからの生き方や働き方について	男性	25.0	6.3	14.7	24.7	16.8	0.2	13.3	61.1	0.8	4.6	8.6	653
	女性	39.8	15.7	9.3	26.4	21.3	1.0	19.9	61.0	1.7	4.8	3.9	713
		***	***	**		*		**				***	
人間関係について	男性	14.5	5.3	17.1	30.3	18.0	0.0	15.8	59.0	1.5	4.9	8.8	532
	女性	30.6	15.2	11.0	35.4	24.2	0.7	22.9	54.0	2.0	5.3	2.6	607
		***	***	**	#	*	***	**	#			***	
経済的な問題(お金のこと)について	男性	33.3	5.2	6.9	9.7	7.4	0.0	6.5	65.4	0.5	4.7	10.5	619
	女性	43.8	13.3	3.2	8.7	9.0	0.2	8.1	62.5	1.4	3.2	6.6	664
		***	***	**								*	

***p<.001、**p<.01、*p<.05、#p<.10

続いて、相談相手の選択状況を、男女それぞれについて配偶状態別に検討する（図表 4-6）。4つの悩みに共通するのは、有配偶者の場合、男女とも「恋人・配偶者」（有配偶者なのでほとんどは配偶者だと考えられる）が、相談相手として選ばれる割合が際立って高いという点である。それ以外の多くの選択肢は、無配偶者で選ばれる割合に比べて有配偶者で選ばれる割合が低くなっている。結婚に伴い、配偶者が男女ともさまざまな悩みの相談相手として大きな比重を占めるようになってきていること（それに対応して、それ以外の相談相手の比重は下がっていること）がわかる。このような、有配偶者における相談相手としての配偶者の比重の高さは、2006年調査や2011年20代調査の結果にもみられた特徴である。

20代調査と比べた、30代調査での結果についていくつかふれておこう。全般に、30代調査では20代調査に比べて「親・保護者」「学校で知り合った友人」の割合の減少が顕著である。また、有配偶の男性で「職場やバイト先の上司」を選ぶ割合が減少しており、自らが上司に相当する立場になった者が始めていることをうかがわせる結果となっている。有配偶者での「恋人・配偶者」の割合の高さは既にふれたが、無配偶の女性で、「恋人・配偶者」を選ぶ割合が20代に比べて減少していることも、注目しておく必要があるかもしれない。さらに、無配偶の男性で、「誰もいない」の割合が20代に比べて増加しており、4つの悩みのすべてで1割を上回っている（「経済的問題」では2割を超えている）ことも注目される。30代の全員でみられるわけではないにせよ、相談ネットワークの縮小をうかがわせる動きが、特に無配偶者でいくつかの形で確認できる。

図表 4-6 悩みの相談相手の選択割合：配偶状態別（％）

		親・保護者	兄弟姉妹	職場やバイト先の上司	職場やバイト先の友人・同僚	学校で知り合った友人	学校の先生・職員・相談員	趣味をとる友人	恋人・配偶者	専門家や公的な支援機関	その他	誰もいない	n(人)
今の自分の仕事や働き方について	男・無配偶	36.7	11.2	26.0	37.2	22.4	1.0	18.4	19.4	3.1	7.1	13.8	196
	男・有配偶	17.1	4.8	21.3	32.4	14.0	0.0	10.4	73.2	0.5	3.1	4.8	414
		***	**			*		**	***	**	*	***	
	女・無配偶	39.4	20.2	22.1	42.3	27.9	1.4	21.6	23.6	2.9	6.2	8.2	196
女・有配偶	37.3	13.3	13.8	34.3	15.0	0.5	15.0	79.9	1.8	5.3	1.8	414	
			*	*	#	***		*	***		***		
これからの生き方や働き方について	男・無配偶	36.8	11.4	19.9	30.8	23.4	0.5	19.9	17.9	2.5	7.0	16.4	201
	男・有配偶	19.3	3.9	12.2	21.4	13.8	0.0	9.7	81.1	0.0	3.0	4.8	435
		***	***	*	*	**		***	***			***	
	女・無配偶	45.9	20.5	13.5	30.1	31.0	2.2	27.5	24.9	2.6	6.6	7.0	229
女・有配偶	37.2	13.3	7.1	23.9	15.9	0.4	16.3	79.1	1.3	3.9	2.6	465	
		*	*	**	#	***		**	***		**		
人間関係について	男・無配偶	24.1	10.8	19.3	33.1	27.1	0.0	22.9	21.7	3.6	7.2	13.9	166
	男・有配偶	9.4	2.6	16.2	28.5	14.0	0.0	11.7	76.4	0.6	3.1	6.6	351
		***	***			***		**	***		*	**	
	女・無配偶	28.4	18.8	16.2	38.1	33.5	1.0	29.9	21.3	3.6	6.1	4.1	197
女・有配偶	31.8	13.2	8.4	33.3	18.6	0.5	19.6	70.7	1.3	4.6	2.0	393	
		#	**		***		**	***					
経済的な問題(お金のこと)について	男・無配偶	48.0	9.9	9.4	15.2	11.1	0.0	10.5	19.3	1.2	11.1	21.6	171
	男・有配偶	27.5	3.2	5.3	7.2	6.0	0.0	4.2	84.7	0.2	2.1	6.0	432
		***	**	#	**	*		**	***		***	***	
	女・無配偶	52.5	21.5	6.0	10.5	11.5	0.5	12.5	21.0	3.0	5.0	13.5	200
女・有配偶	39.6	9.8	2.0	8.1	7.4	0.0	6.5	81.2	0.7	2.2	3.6	447	
		**	***	**		#		*	***		#	***	

***p<.001、**p<.01、*p<.05、#p<.10 十分なケース数がある場合のみ検定を行っている

相談相手の選択状況を、男女それぞれについて就業状況（従業上の地位）別に整理したのが図表 4-7 であり、回答者の学歴による相談相手の選択状況の違いをまとめたのが図表 4-8 である。いずれもかなり細かい整理になるため、ここから特徴をとらえるのは難しいが、ここでは「誰もいない」を選ぶ割合が、高等教育中退者の男性など、一部限られた少数のグループで高くなっているものの、それほど多くは見えないかもしれない。それは結局、有配偶者は多くが配偶者を相談相手に選んでいるため、「誰もいない」のは無配偶者であることが多く、また 30 代では有配偶者の方が無配偶者よりも多いため、配偶状態別ではない集計では「誰もいない」の存在が浮き上がりにくいという点があるからである。また、非典型雇用の男性で「恋人・配偶者」を選ぶ割合が他のカテゴリーと比べて顕著に低いが、これは非典型雇用の男性に有配偶者が非常に少ないことの反映である。

図表4-7 悩みの相談相手の選択割合：現在の就業状況別（％）

		親・保護者	兄弟姉妹	職場やバイト先の上司	職場やバイト先の友人・同僚	学校で知り合った友人	学校の先生・職員・相談員	趣味をともにする友人	恋人・配偶者	専門家や公的な支援機関	その他	誰もいない	n(人)
今の自分の仕事や働き方について	男・正社員(公務員含む)	21.5	6.7	26.7	37.4	16.3	0.2	11.1	59.1	0.7	2.8	7.6	460
	男・非典型雇用	29.3	10.3	19.0	29.3	15.5	0.0	15.5	29.3	3.4	12.1	6.9	58
	男・自営・家業	30.8	5.5	11.0	23.1	20.9	1.1	24.2	62.6	1.1	9.9	4.4	91
	男・無業、その他	27.8	11.1	11.1	16.7	11.1	0.0	5.6	22.2	11.1	5.6	27.8	18
	女・正社員(公務員含む)	35.7	14.0	25.1	51.2	27.5	1.0	14.0	55.1	2.4	4.8	4.3	207
	女・非典型雇用	36.6	16.1	13.0	32.3	16.8	0.3	19.9	63.0	1.2	6.5	3.7	322
	女・自営・家業	50.0	18.3	9.8	24.4	17.1	2.4	15.9	64.6	2.4	4.9	1.2	82
	女・無業、その他	23.1	7.7	15.4	38.5	7.7	0.0	23.1	46.2	15.4	0.0	15.4	13
これからの生き方や働き方について	男・正社員(公務員含む)	23.0	6.4	16.8	26.9	16.1	0.0	10.8	65.6	0.6	2.7	7.9	483
	男・非典型雇用	31.0	12.1	12.1	19.0	15.5	0.0	19.0	31.0	1.7	10.3	12.1	58
	男・自営・家業	29.9	3.1	7.2	18.6	21.6	1.0	24.7	62.9	0.0	10.3	5.2	97
	男・無業、その他	33.5	0.0	6.7	13.3	13.3	0.0	0.0	20.0	6.7	6.7	40.0	15
	女・正社員(公務員含む)	41.8	15.9	15.1	33.6	28.9	1.3	17.2	56.9	1.7	4.7	3.9	232
	女・非典型雇用	39.9	16.1	6.3	23.0	18.0	0.5	21.0	63.9	0.8	4.9	3.8	366
	女・自営・家業	36.6	15.8	5.9	21.8	17.8	2.0	20.8	63.4	4.0	5.0	2.0	101
	女・無業、その他	28.6	0.0	14.3	28.6	7.1	0.0	28.6	35.7	7.1	0.0	21.4	14
人間関係について	男・正社員(公務員含む)	12.8	2.8	20.3	32.1	18.5	0.0	14.3	60.4	1.3	3.0	9.0	399
	男・非典型雇用	17.8	6.7	8.9	31.1	11.1	0.0	20.0	35.6	0.0	11.1	8.9	45
	男・自営・家業	21.5	2.5	6.3	22.8	17.7	0.0	22.8	70.9	1.3	11.4	6.3	79
	男・無業、その他	11.1	0.0	11.1	11.1	33.3	0.0	0.0	11.1	22.2	0.0	22.2	9
	女・正社員(公務員含む)	28.1	12.8	15.8	42.4	29.6	0.5	19.2	50.7	3.0	4.4	3.4	203
	女・非典型雇用	30.1	14.7	9.9	34.9	22.1	0.3	25.3	55.4	1.3	5.8	2.6	312
	女・自営・家業	38.1	21.4	4.8	22.6	20.2	2.4	20.2	57.1	1.2	4.8	1.2	84
	女・無業、その他	37.5	0.0	0.0	12.5	12.5	0.0	50.0	50.0	12.5	12.5	0.0	8
経済的な問題(お金のこと)について	男・正社員(公務員含む)	32.0	4.5	8.1	9.8	7.4	0.0	5.8	69.8	0.4	3.1	9.8	447
	男・非典型雇用	43.6	9.1	3.6	9.1	7.3	0.0	9.1	38.2	0.0	7.3	14.5	55
	男・自営・家業	33.7	5.0	5.0	10.9	6.9	0.0	8.9	67.3	0.0	10.9	7.9	101
	男・無業、その他	31.2	12.5	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	25.0	6.2	0.0	31.2	16
	女・正社員(公務員含む)	42.9	14.1	5.8	7.3	9.4	0.0	7.3	54.5	0.5	4.7	7.9	191
	女・非典型雇用	44.6	13.9	1.4	8.7	9.0	0.3	8.7	64.9	1.0	1.6	6.2	368
	女・自営・家業	40.9	9.7	4.3	11.8	8.6	0.0	6.5	71.0	1.9	3.5	4.3	93
	女・無業、その他	58.3	8.3	8.3	8.3	8.3	0.0	16.7	50.0	0.0	5.4	16.7	12

***p<.001、**p<.01、*p<.05、#p<.10 十分なケース数がある場合のみ検定を行っている

図表4-8 悩みの相談相手の選択割合：学歴別（％）

		親・保護者	兄弟姉妹	職場やバイト先の上司	職場やバイト先の友人・同僚	学校で知り合った友人	学校の先生・職員・相談員	趣味をともにする友人	恋人・配偶者	専門家や公的な支援機関	その他	誰もいない	n(人)
今の自分の仕事や働き方について	男・高卒	22.4	8.2	20.9	26.9	15.7	0.0	20.1	53.7	0.7	6.0	8.2	134
	男・専門卒	25.8	11.3	18.5	35.5	17.7	0.0	13.7	48.4	0.0	5.6	8.9	124
	男・短大・高専卒	28.6	14.3	35.7	28.6	7.1	0.0	14.3	50.0	7.1	0.0	7.1	14
	男・大学・大学院卒	22.7	4.0	27.8	37.2	17.0	0.7	8.7	58.8	1.1	4.7	6.5	277
	男・中卒・高校中退	18.2	12.1	9.1	39.4	15.2	0.0	6.1	69.7	3.0	0.0	9.1	33
	男・高等教育中退	32.4	5.4	21.6	29.7	18.9	0.0	24.3	54.1	5.4	2.7	10.8	37
今の自分の仕事や働き方について	女・高卒	30.8	11.4	14.6	30.8	8.5	0.8	20.0	56.9	2.3	6.9	1.5	130
	女・専門卒	42.1	13.4	15.1	39.6	14.5	0.6	13.8	64.2	0.6	4.4	5.7	159
	女・短大・高専卒	34.8	18.3	17.0	40.2	27.7	0.9	20.5	58.0	1.8	4.5	3.6	112
	女・大学・大学院卒	42.5	8.1	18.4	39.1	30.2	1.1	19.0	59.8	3.4	5.6	3.9	179
	女・中卒・高校中退	31.8	18.2	22.7	36.4	13.6	0.0	4.5	54.5	0.0	18.2	9.1	22
	女・高等教育中退	41.2	5.6	17.6	35.3	11.8	0.0	11.8	76.5	5.9	0.0	0.0	17
これからの生き方や働き方について	男・高卒	17.9	7.5	12.7	21.6	13.4	0.0	20.1	56.7	0.0	5.2	7.5	134
	男・専門卒	32.3	9.0	16.5	27.1	18.0	0.0	13.5	54.9	1.5	6.0	8.3	133
	男・短大・高専卒	33.3	8.3	25.0	16.7	0.0	0.0	16.7	58.3	0.0	0.0	8.3	1
	男・大学・大学院卒	24.7	5.1	15.5	25.9	19.2	0.3	9.8	65.0	0.3	4.4	8.8	297
	男・中卒・高校中退	10.0	3.3	3.3	23.3	13.3	0.0	0.0	76.7	3.3	3.3	10.0	30
	男・高等教育中退	28.9	2.6	13.2	18.4	13.2	0.0	21.1	60.5	2.6	0.0	13.2	38
これからの生き方や働き方について	女・高卒	36.4	11.9	6.0	21.2	9.3	0.7	17.2	58.3	1.3	4.6	3.3	151
	女・専門卒	41.2	15.8	10.2	28.8	18.6	0.6	19.8	64.4	1.1	4.0	4.0	177
	女・短大・高専卒	38.1	19.8	7.9	27.8	26.2	0.8	18.3	60.3	2.4	4.8	3.2	126
	女・大学・大学院卒	41.0	14.1	12.7	27.3	29.3	1.5	24.9	60.0	2.0	4.4	5.4	205
	女・中卒・高校中退	44.4	33.3	11.1	18.5	14.8	0.0	3.7	48.1	0.0	11.1	3.7	27
	女・高等教育中退	31.6	5.3	0.0	26.3	21.1	0.0	10.5	89.5	5.3	5.3	0.0	19
人間関係について	男・高卒	14.7	4.6	14.7	30.3	11.9	0.0	23.9	58.7	0.9	5.5	5.5	109
	男・専門卒	17.7	8.8	14.2	30.1	19.5	0.0	14.2	58.4	0.0	2.7	9.7	113
	男・短大・高専卒	16.7	0.0	33.3	33.3	16.7	0.0	25.0	50.0	8.3	0.0	0.0	12
	男・大学・大学院卒	13.4	3.9	20.7	31.0	21.1	0.0	12.1	59.1	1.7	6.5	10.8	232
	男・中卒・高校中退	0.0	7.1	3.6	28.6	10.7	0.0	7.1	71.4	3.6	0.0	3.6	28
	男・高等教育中退	18.8	3.1	15.6	25.0	15.6	0.0	18.8	53.1	3.1	3.1	12.5	32
人間関係について	女・高卒	27.5	13.7	7.6	26.7	15.3	0.8	25.2	54.2	1.5	3.1	3.1	131
	女・専門卒	31.3	14.7	10.0	40.0	22.7	0.0	20.7	58.7	1.3	4.0	1.3	150
	女・短大・高専卒	27.4	16.8	13.3	38.1	30.1	0.9	22.1	50.4	2.7	2.7	1.8	113
	女・大学・大学院卒	36.1	13.9	11.4	35.5	30.7	0.6	23.5	52.4	2.4	6.0	4.2	166
	女・中卒・高校中退	19.0	23.8	14.3	23.8	9.5	0.0	14.3	47.6	0.0	23.8	4.8	21
	女・高等教育中退	26.3	15.8	15.8	47.4	15.8	0.0	21.1	63.2	5.3	10.5	0.0	19
経済的な問題(お金のこと)について	男・高卒	28.2	3.1	7.6	7.6	3.8	0.0	9.2	64.1	0.0	6.9	8.4	131
	男・専門卒	37.3	9.0	9.7	11.9	11.2	0.0	9.0	56.7	0.7	4.5	10.4	134
	男・短大・高専卒	35.7	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	78.6	0.0	0.0	0.0	14
	男・大学・大学院卒	32.9	3.9	6.3	9.4	8.6	0.0	3.1	70.6	0.4	3.9	11.8	255
	男・中卒・高校中退	25.7	2.9	2.9	14.3	5.7	0.0	2.9	71.4	2.9	0.0	14.3	35
	男・高等教育中退	40.0	7.5	5.0	10.0	5.0	0.0	10.0	60.0	0.0	7.5	12.5	40
経済的な問題(お金のこと)について	女・高卒	40.4	12.8	4.5	10.3	3.2	0.0	8.3	61.5	2.6	2.6	6.4	156
	女・専門卒	42.8	13.3	1.2	5.8	9.2	0.0	5.8	67.6	1.2	2.9	5.8	173
	女・短大・高専卒	40.9	10.9	4.5	10.0	10.0	0.0	10.0	56.4	0.0	5.5	7.3	110
	女・大学・大学院卒	50.0	12.9	2.9	8.2	13.5	0.0	8.8	63.5	1.2	1.8	8.8	170
	女・中卒・高校中退	35.7	25.0	7.1	14.3	7.1	3.6	7.1	46.4	3.6	10.7	3.6	28
	女・高等教育中退	40.0	10.0	0.0	15.0	10.0	0.0	10.0	75.0	0.0	0.0	0.0	20

***p<.001、**p<.01、*p<.05、#p<.10 十分なケース数がある場合のみ検定を行っている

第4節 相談ネットワークの広がり

前節でみたのは、相談ネットワークの実態としての、誰が相談相手として選ばれているか／いないかの状況であった。つまり、回答者と相談相手の二者間の関係のみをみていたことになるわけだが、ひとつの悩みについて相談相手が一人だけとは当然限らず、複数の相談相手がいることもありうる。そこで本節では、回答者が個々の悩みにどのような相談相手の組み合わせを選んでいるのかについて検討する。つまり、一人が複数の人とどのようなネット

ワークをつくっているのかに注目し、相談ネットワークの広がりについて分析する。

なお、当該の質問項目では相談相手の選択肢が（「誰もいない」も含めて）11件もあるため、ここでは4つのカテゴリーに整理した。1つ目は「家族」で、これは「親・保護者」と「兄弟姉妹」からなる。2つ目は「職場関係」で、「職場やバイト先の上司」と「職場やバイト先の友人・同僚」が該当する。3つ目は「友人」で、「学校で知り合った友人」と「趣味をともにする友人」が含まれる。4つ目は「恋人・配偶者」である。相談相手として選ばれる割合がおおむね5%以下と低かった残り4つの選択肢（「学校の先生・職員・相談員」「カウンセラー等の専門家や公的な支援機関」「その他」「誰もいない」）は、この新しい4つのカテゴリーには含まれていない。

そして、個々のカテゴリーについて、それを構成する選択肢のうちのいずれか1つでも選択されていれば、そのカテゴリーが相談相手として選ばれているとみなす。たとえば「家族」の場合、ある回答者が「親・保護者」と「兄弟姉妹」のいずれか1つでも選択しているのであれば、その回答者は「家族」を相談相手に選んでいると考える。このようにして、11件の選択肢の選択状況を、4つのカテゴリーの選択状況に変換してとらえることにする。4つのカテゴリーのそれぞれについて、選ぶ／選ばないという2つの可能性があるため、相談ネットワークの組み合わせは16パターンあることになる。相談相手に選ばれている場合に1、選ばれていない場合に0という値を割り当て、割り当てた値を4桁に順に並べて表記すると、相談ネットワークの16パターンを4桁の数値で表現することができる（図表4-9）。たとえば、相談相手として「親・保護者」と「職場やバイト先の友人・同僚」のみを選んでいる場合、「家族」と「職場関係」というカテゴリーに該当するため、その相談ネットワークは「1100」と表記される。以下では、相談ネットワークを表現する際に、適宜この4桁の数値を用いることにする。また、4つの個々の相談先に言及する際は、それぞれを「相談チャンネル」と呼ぶことにする。

図表 4-9 相談相手の組み合わせと表記法

表記	家族	職場関係	友人	恋人・配偶者
0000	×	×	×	×
0001	×	×	×	○
0010	×	×	○	×
0011	×	×	○	○
0100	×	○	×	×
0101	×	○	×	○
0110	×	○	○	×
0111	×	○	○	○
1000	○	×	×	×
1001	○	×	×	○
1010	○	×	○	×
1011	○	×	○	○
1100	○	○	×	×
1101	○	○	×	○
1110	○	○	○	×
1111	○	○	○	○

○:相談相手として選ばれている

×:相談相手として選ばれていない

注)4桁の数値は、1000の位が「家族」、100の位が「職場関係」、10の位が「友人」、1の位が「恋人・配偶者」にそれぞれ割り当てられている。

このように整理したのは、ただ相談相手が多いか少ないかということに注目するのではなく、回答者と相談相手のつながり方の多様性をとらえることによってこそ、相談ネットワークの多様性を把握できると考えるからである。たとえば、「職場やバイト先の上司」と「職場やバイト先の友人・同僚」は異なる選択肢を設けているが、この2つが選ばれているとしても、回答者とのつながり方は上司であれ同僚であれ「職場」を介するという点で共通である。いわば、上司も同僚も同じ一つの“世界”の出身だと考えられる。これに対して、たとえば「兄弟姉妹」と「職場やバイト先の友人・同僚」の2つが選ばれているとき、この2つは回答者とのつながり方が共通ではない（「家族」と「職場」）ので、それぞれ異なる“世界”の人だとみなすことができる。したがって、「職場やバイト先の上司」と「職場やバイト先の友人・同僚」が選ばれている場合と、「兄弟姉妹」と「職場やバイト先の友人・同僚」が選ばれている場合を考えると、どちらも「2つ」の相談相手が選ばれているとみなしてしまえば、後者がいま述べたような意味でより多様なつながり方をしていることが見失われてしまうのである。ここでは、相談ネットワークがいかなる多様性を含みこんでいるかを把握するという意図があるので、11の選択肢を整理・集約するに際して、4つの異なる“世界”を表すものとして、上述の4カテゴリーを設けたというわけである⁶。

なお、4つのカテゴリーがどれも選ばれなかった場合は「0000」となるが、これは11の選

⁶ もちろん、「回答者と相談相手のつながり方の多様性をとらえる」といっても、このような形で4つのカテゴリーに整理することは、唯一の方法ではない。特に、結びつきの背景を問わずに「友人」として一括している点は、つながり方の多様性をむしろ押しつぶしているともいえるかもしれない。ここでは、家族と職場関係を中心的なものとみてそれらをカテゴリーにすることを優先したため、このような整理の仕方を選んでいる。

択肢の中の「誰もいない」と同一ではない。「誰もいない」は相談相手が一切いないという意味だが、「0000」はあくまでも4カテゴリーには相談相手がいないということなので、4カテゴリーに含まれない「学校の先生・職員・相談員」「カウンセラー等の専門家や公的な支援機関」「その他」だけを相談相手として選んでいる場合も「0000」に含まれている。しかし実際にはそのようなケースは多くなく、4つの悩みのすべてにおいて、「0000」の7割以上を「誰もいない」が占めている⁷。

以上のような方法で16パターンに整理された相談ネットワークが、実際にどのような状況であるのかを、続けて4つの悩みごとに検討することにしよう。その際、ここまでの検討をふまえて、性別・配偶状態別に分けた上で、さらに就業状況（従業上の地位）ごとにみることにする。就業状況としては、特に「正社員（公務員を含む）」「非典型雇用」「無業、その他」の3つをとりあげて比較する（以下では、正社員・非典型雇用・無業と表現する）⁸。このような形で検討するのは、2006年調査および2011年20代調査の結果をふまえ、基本属性（特に就業状況）によってネットワークのあり方が規定されている可能性を考慮したためである。なお、有配偶者のうち、男性・女性の無業については、該当者が少ないためここでは割愛し検討していない。

以下の検討において特に注目するのは、2006年調査でみられ、2011年20代調査では曖昧化しつつも基調として存続していた傾向が、この30代調査でも確認できるかという点である。すなわち、相談ネットワークに関して、職場関係の人を選ぶ割合は、「正社員＞非典型雇用＞無業」となっており、友人や家族を選ぶ割合や、相手がいない割合は、「正社員＜非典型雇用＜無業」となっているという傾向の存在であった（久木元 2006, 2007）。30代調査でも、同様の傾向が見出せるだろうか。

まず、「今の自分の仕事や働き方」についての悩みについて検討しよう。この悩みに対して、どのような相談ネットワークのパターンが選択されているかを、性別・配偶状態・就業状況別に整理して示したのが図表4-10である。この表では、それぞれの属性の組み合わせについて、選ばれた割合が多いパターンから順に列記している。たとえば、「男性・無配偶・正社員」の場合、「0100」つまり職場関係の人にだけ相談するというパターンが24.5%を占めて最も多く、次に多いのは「0000」（相手がいない⁹）で18.2%、その次は「1100」つまり家族関係および職場関係の人に相談するというパターンで、10.0%を占めている、という形である。

⁷ 「今の仕事」の場合、相談ネットワークが「0000」である人は100人（その悩みがある人全体＝その悩みの相談ネットワークの回答が得られている人全体の8.0%）で、そのうち「誰もいない」と回答しているのは72.0%（72人）である。同様に、「これからの生き方」・「人間関係」・「経済的問題」の場合、それぞれ「0000」である人は114人（同8.4%）・85人（7.5%）・138人（10.8%）で、そのうち73.7%（84人）・74.1%（63人）・79.0%（109人）が「誰もいない」と回答している。

⁸ 「自営・家業」などは、典型雇用／非典型雇用の間で対比するという関心から、ここでは割愛した。

⁹ 上述したとおり、「0000」に含まれるのは相談相手が一切いないケースだけではないが、その過半数を占めるのが「誰もいない」という回答であることを考慮し、要約的に表現する際は「相手がいない」と表すことにする。

この内容を、特に無配偶の回答者について、「家族」「職場関係」「友人」「恋人・配偶者」という4つの相談チャンネルごとに整理したのが図表4-11である。これは、4つのチャンネルがそれぞれ相談相手として選ばれているパターンの合計割合を、20代調査と今回の30代調査と並列的に整理して示したものである¹⁰。これをみると、30代調査では、男女とも正社員では「職場関係」が6割前後の人から選ばれているのに対して、非典型雇用では男性で34.1%、女性で43.9%から選ばれているにとどまっている。20代調査でも、「職場関係」を選ぶ割合の正社員・非典型雇用間の差はみられたものの、30代調査ではよりその差が広がっていることがわかる。20代から30代になると、無配偶の正社員にとっては「職場関係」は相談チャンネルの重要な一つであり続けているものの、非典型雇用の人（特に男性）にとっては、「職場関係」は相談チャンネルとして後退していることがわかる。さらに、少数のケース数しかないため注意が必要ではあるが、「無業、その他」についてもみると、非典型雇用の人よりもさらに少ない割合しか選ばれていない。以上から、職場関係を含む相談ネットワークのパターンには、「正社員>非典型雇用>無業」という関係があることがうかがえる。これは2006年調査や2011年20代調査でも見出された傾向であり、いったん20代調査でやや曖昧になったものの、この30代調査では再び明確に浮かび上がってきているといえよう。

図表4-11からは、「家族」や「友人」、女性では「恋人」も、20代調査に比べて30代ではかなり低い割合となっていることが読み取れる。さらに、「0000」（相手がいない）つまり家族・職場関係・友人・恋人のいずれも相談相手に選んでいないパターンの割合が、明確に増加していることもわかる。図表4-10からは、特に無配偶の男性に関して、すべての相談ネットワークのパターンの中で、「0000」が正社員では2番目に、非典型雇用では1番多くなっていることが確認できる。20代に比べて、30代の相談ネットワークが縮小ないし減少していることが、さまざまな点から浮かび上がっているといえる。

なお、有配偶者の場合は、図表4-10にみるように男女とも「職場関係」に加えて配偶者が相談相手に選ばれているパターンの割合が非常に多く、有配偶者にとって配偶者は相談相手としてきわめて大きな存在になっていることがわかる。その中でも「0001」（配偶者のみ）は表に示したもののすべてで最も多くなっている。また「職場関係」は、配偶者に次いで高い割合となっているが、女性ではやはり正社員でより高い割合を占めている。こうした傾向は、2006年調査および20代調査とおおむね同様の結果である。

以上から、「今の仕事」についての悩みの相談ネットワークに関しては、以下の諸点が指摘できる。無配偶者の場合、2006年にみられ、2011年20代調査でやや曖昧になったものの基調として存続していた、「職場関係」の人を選ぶ割合が「正社員>非典型雇用>無業」になるという傾向は、この30代調査の結果では再び明確になっている。ただし、全体として各相談チャンネルが選ばれている割合は、20代に比べて30代では少なくなっており、「相手がいな

¹⁰ たとえば家族の場合だと、各パターンのうち家族を選んでいる8つ（「1000」「1001」「1010」「1011」「1100」「1101」「1110」「1111」）の割合の合計を載せている。

い」の増加も見出せるなど、30代の相談ネットワーク自体が縮小ないし減少していることが指摘できる。有配偶者では、男女とも配偶者が突出して主要な相談相手となっている。

図表4-10 「今の自分の仕事や働き方」についての悩みの相談ネットワーク
(2011年調査、30~39歳、%)

男・無配偶・30~39歳		非典型雇用		無業、その他	
正社員(公務含む)		非典型雇用		無業、その他	
0100	24.5%	0000	19.5%	0000	28.6%
0000	18.2%	1000	14.6%	1000	28.6%
1100	10.0%	1100	12.2%	0100	14.3%
1110	7.3%	0100	12.2%	0001	7.1%
0110	7.3%	0010	9.8%	0010	7.1%
0010	6.4%	0001	9.8%	1010	7.1%
1111	4.5%	1110	4.9%	1110	7.1%
1010	4.5%	1010	4.9%	0011	0.0%
1000	4.5%	1001	4.9%	0101	0.0%
0111	2.7%	0110	2.4%	0110	0.0%
0011	2.7%	0101	2.4%	0111	0.0%
1101	1.8%	0011	2.4%	1001	0.0%
1011	1.8%	1111	0.0%	1011	0.0%
1001	1.8%	1101	0.0%	1100	0.0%
0101	0.9%	1011	0.0%	1101	0.0%
0001	0.9%	0111	0.0%	1111	0.0%
n(人) 110		n(人) 41		n(人) 14	

女・無配偶・30~39歳		非典型雇用		無業、その他	
正社員(公務含む)		非典型雇用		無業、その他	
0100	15.6%	0100	17.1%	0000	30.0%
0110	12.5%	1000	13.4%	0001	10.0%
1110	12.5%	0000	12.2%	0010	10.0%
0000	9.4%	1100	12.2%	0101	10.0%
0010	8.3%	0010	8.5%	1000	10.0%
1000	8.3%	0001	7.3%	1001	10.0%
1100	6.2%	1110	7.3%	1110	10.0%
1101	5.2%	1010	6.1%	1111	10.0%
0011	4.2%	1001	4.9%	0011	0.0%
0101	4.2%	0110	3.7%	0100	0.0%
0111	4.2%	0011	2.4%	0110	0.0%
1111	4.2%	0111	2.4%	0111	0.0%
1010	3.1%	1011	1.2%	1010	0.0%
0001	1.0%	1101	1.2%	1011	0.0%
1001	1.0%	0101	0.0%	1100	0.0%
1011	0.0%	1111	0.0%	1101	0.0%
n(人) 96		n(人) 82		n(人) 10	

男・有配偶・30~39歳		非典型雇用	
正社員(公務含む)		非典型雇用	
0001	31.7%	0001	35.3%
0101	15.7%	0000	17.6%
0100	13.0%	0100	17.6%
0111	6.2%	0111	11.8%
0000	5.6%	0010	5.9%
1001	5.6%	1011	5.9%
0011	5.3%	1100	5.9%
1101	5.0%	0011	0.0%
0010	3.0%	0101	0.0%
0110	2.1%	0110	0.0%
1111	2.1%	1000	0.0%
1000	1.8%	1001	0.0%
1100	1.5%	1010	0.0%
1011	1.2%	1101	0.0%
1110	0.3%	1110	0.0%
1010	0.0%	1111	0.0%
n(人) 338		n(人) 17	

女・有配偶・30~39歳		非典型雇用	
正社員(公務含む)		非典型雇用	
0001	26.0%	0001	24.1%
0101	15.4%	1001	13.4%
1101	15.4%	0101	8.2%
1001	9.6%	1011	8.2%
1111	7.7%	1101	8.2%
0100	6.7%	0011	6.5%
0011	4.8%	0100	6.0%
0111	4.8%	0111	5.2%
0000	3.8%	0000	4.3%
1011	1.9%	1111	4.3%
0110	1.0%	1000	3.9%
1000	1.0%	0010	2.6%
1010	1.0%	1110	2.2%
1110	1.0%	0110	1.3%
0010	0.0%	1100	1.3%
1100	0.0%	1010	0.4%
n(人) 104		n(人) 232	

図表 4-11 「今の自分の仕事や働き方」についての悩みの、相談チャンネルごとの
選択割合（2011年調査、30～39歳／20～29歳、％）

男性・無配偶・30～39歳				女性・無配偶・30～39歳			
2011年	正社員 (公務含)	非典型雇 用	無業、そ の他	2011年	正社員 (公務含)	非典型雇 用	無業、そ の他
家族	36.4%	41.5%	42.9%	家族	40.6%	46.3%	40.0%
職場関係	59.1%	34.1%	21.4%	職場関係	64.6%	43.9%	30.0%
友人	37.3%	24.4%	21.4%	友人	49.0%	31.7%	30.0%
恋人	17.3%	19.5%	7.1%	恋人	24.0%	19.5%	40.0%
「0000」	18.2%	19.5%	28.6%	「0000」	9.4%	12.2%	30.0%
n(人)	110	41	14	n(人)	96	82	10

男性・無配偶・20～29歳				女性・無配偶・20～29歳			
2011年	正社員 (公務含)	非典型雇 用	無業、そ の他	2011年	正社員 (公務含)	非典型雇 用	無業、そ の他
家族	47.1	49.6	54.3	家族	62.5	62.2	64.7
職場関係	57.0	54.0	13.0	職場関係	61.4	49.8	23.5
友人	47.1	46.7	37.0	友人	55.9	54.5	38.2
恋人	19.5	14.6	8.7	恋人	35.7	31.3	20.6
「0000」	12.4	10.9	26.1	「0000」	3.4	4.7	8.8
n(人)	323	137	46	n(人)	381	233	34

次に、「これからの生き方や働き方」についての悩みに関して検討しよう。

図表 4-12 および図表 4-13 をみると、「職場関係」が選ばれる割合に関して、「正社員＞非典型雇用＞無業」という関係が明確になっていることがわかる。これについては、「今の仕事」の場合と同様に、2006年で見られた明確な関係が2011年20代調査では曖昧になっていた（特に男性について、正社員と非典型雇用との差が小さくなっていた）のに対して、この30代調査では再び差が広がっていることが確認できる。具体的な数値を図表 4-13 からみると、正社員で「職場関係」を選ぶ割合は20代と比べてわずかな増加がみられるのに対して、非典型雇用ではその割合は低下しており、特に男性では大きく低下している。「これからの生き方や働き方」についての悩みの相談先としても、非典型雇用の無配偶30代男女にとって、「職場関係」は20代よりも存在感を薄めているといえる。

同時に、全体的に「家族」や「友人」を選ぶ割合自体も下がっており、そして「0000」（相手がいない）の割合は上がっている（図表 4-12 のとおり、男性に関しては上位を占めている）。やはり、30代の相談ネットワーク自体の縮小ないし減少傾向はこの悩みに関しても確認できる。そして、この悩みについても、男女とも有配偶で配偶者が相談相手として際立った存在となっている。

図表 4-12 「これからの生き方や働き方」についての悩みの相談ネットワーク
(2011年調査、30~39歳、%)

男・無配偶・30~39歳					女・無配偶・30~39歳						
正社員(公務含む)		非典型雇用		無業、その他	正社員(公務含む)		非典型雇用		無業、その他		
0100	23.5%	0000	26.8%	0000	41.7%	1000	12.4%	1000	21.3%	0000	36.4%
0000	20.0%	1000	17.1%	1000	16.7%	1010	12.4%	0010	12.4%	1001	18.2%
1000	8.7%	1100	12.2%	0001	8.3%	0010	11.4%	0000	10.1%	0001	9.1%
1110	8.7%	0010	9.8%	0010	8.3%	1110	10.5%	1010	9.0%	0010	9.1%
0010	7.0%	1010	9.8%	0100	8.3%	0000	9.5%	1100	9.0%	1010	9.1%
1010	6.1%	0001	7.3%	1010	8.3%	0110	8.6%	0001	6.7%	0111	9.1%
0110	6.1%	0100	4.9%	1100	8.3%	0100	5.7%	0100	6.7%	1110	9.1%
1100	4.3%	1001	4.9%	1001	0.0%	1101	5.7%	1001	4.5%	0100	0.0%
1111	3.5%	0011	2.4%	0101	0.0%	0011	4.8%	0110	4.5%	1000	0.0%
1001	2.6%	110	2.4%	1011	0.0%	1100	4.8%	1110	4.5%	0101	0.0%
0111	2.6%	0111	2.4%	0011	0.0%	1011	3.8%	0111	3.4%	1011	0.0%
0101	1.7%	0101	0.0%	0110	0.0%	1001	2.9%	1011	2.2%	0011	0.0%
1011	1.7%	1011	0.0%	1101	0.0%	0101	2.9%	0011	2.2%	0110	0.0%
0011	1.7%	1101	0.0%	0111	0.0%	0001	1.9%	0101	1.1%	1100	0.0%
0001	0.9%	1110	0.0%	1110	0.0%	0111	1.9%	1101	1.1%	1101	0.0%
1101	0.9%	1111	0.0%	1111	0.0%	1111	1.0%	1111	1.1%	1111	0.0%
n(人)	115	n(人)	41	n(人)	12	n(人)	105	n(人)	89	n(人)	11

男・有配偶・30~39歳				女・有配偶・30~39歳			
正社員(公務含む)		非典型雇用		正社員(公務含む)		非典型雇用	
0001	45.5%	0001	29.4%	0001	32.2%	0001	29.0%
0101	11.2%	0000	17.6%	1001	15.3%	1001	14.1%
1001	7.6%	0010	11.8%	1101	11.0%	1011	8.9%
0100	6.7%	0111	11.8%	0101	6.8%	0011	7.1%
0011	5.9%	0100	5.9%	0011	6.8%	1000	6.3%
0000	5.3%	1001	5.9%	0111	6.8%	0101	5.9%
1101	3.4%	0101	5.9%	1111	5.1%	1101	5.9%
1011	2.8%	1011	5.9%	0000	4.2%	0000	4.1%
0111	2.8%	1111	5.9%	1000	3.4%	0010	4.1%
1111	2.8%	1000	0.0%	0100	2.5%	1111	3.3%
0010	2.0%	1010	0.0%	1011	2.5%	0111	3.0%
1000	1.4%	0011	0.0%	0010	0.8%	0100	2.6%
0110	0.8%	0110	0.0%	0110	0.8%	1010	2.6%
1100	0.8%	1100	0.0%	1100	0.8%	0110	1.5%
1110	0.6%	1101	0.0%	1110	0.8%	1100	0.7%
1010	0.3%	1110	0.0%	1010	0.0%	1110	0.7%
n(人)	356	n(人)	17	n(人)	118	n(人)	269

図表 4-13 「これからの生き方や働き方」についての悩みの、相談チャンネルごとの
選択割合 (2011年調査、30~39歳/20~29歳、%)

男性・無配偶・30~39歳				女性・無配偶・30~39歳			
2011年	正社員 (公務含む)	非典型雇 用	無業、そ の他	2011年	正社員 (公務含む)	非典型雇 用	無業、そ の他
家族	36.5%	43.9%	33.3%	家族	53.3%	52.8%	36.4%
職場関係	51.3%	22.0%	16.7%	職場関係	41.0%	31.5%	18.2%
友人	37.4%	26.8%	16.7%	友人	54.3%	39.3%	36.4%
恋人	15.7%	17.1%	8.3%	恋人	24.8%	22.5%	36.4%
「0000」	20.0%	26.8%	41.7%	「0000」	9.5%	10.1%	36.4%
n(人)	115	41	12	n(人)	105	89	11

男性・無配偶・20~29歳				女性・無配偶・20~29歳			
2011年	正社員 (公務含む)	非典型雇 用	無業、そ の他	2011年	正社員 (公務含む)	非典型雇 用	無業、そ の他
家族	43.1	50.0	62.2	家族	58.3	61.4	65.8
職場関係	45.5	41.8	11.1	職場関係	47.0	36.2	18.4
友人	48.1	43.8	35.6	友人	56.1	54.5	39.5
恋人	22.7	19.2	8.9	恋人	37.1	30.5	21.1
「0000」	13.7	10.3	20.0	「0000」	5.1	6.9	15.8
n(人)	343	146	45	n(人)	396	246	38

続いて、「人間関係」についての悩みである。図表4-14および図表4-15をみると、20代調査でみられた「職場関係」についての「正社員>非典型雇用>無業」という関係は、30代調査でも男性については確認できるものの、女性に関しては非典型雇用で選ばれる割合がやや高く、この傾向からわずかにはずれている。ただし、20代調査と比較して、家族の割合の低さなど、他の悩みと共通の傾向もみられる。有配偶者での配偶者の存在の大きさは、これまでの悩みと同様である。

図表4-14 「人間関係」についての悩みの相談ネットワーク
(2011年調査、30~39歳、%)

男・無配偶・30~39歳						女・無配偶・30~39歳					
正社員(公務含む)		非典型雇用		無業、その他		正社員(公務含む)		非典型雇用		無業、その他	
0100	22.7%	0010	18.8%	0000	37.5%	0010	19.1%	0100	24.7%	0010	28.6%
0000	17.5%	0100	18.8%	0010	37.5%	0100	12.8%	0010	13.0%	1001	28.6%
0010	17.5%	0000	15.6%	0100	12.5%	0110	10.6%	1010	11.7%	0000	14.3%
0110	7.2%	0001	12.5%	1000	12.5%	1110	9.6%	0110	11.7%	1010	14.3%
1100	6.2%	1000	9.4%	0001	0.0%	1000	8.5%	0000	7.8%	0111	14.3%
1110	6.2%	1100	9.4%	1001	0.0%	0000	6.4%	1000	7.8%	0001	0.0%
0011	4.1%	1001	6.3%	0101	0.0%	1010	5.3%	1110	6.5%	0100	0.0%
1111	4.1%	0101	3.1%	1010	0.0%	0011	5.3%	0001	3.9%	1000	0.0%
0001	3.1%	1010	3.1%	1011	0.0%	0001	3.2%	1001	3.9%	0101	0.0%
1010	3.1%	0110	3.1%	0011	0.0%	0101	3.2%	0011	2.6%	1011	0.0%
0101	2.1%	1011	0.0%	0110	0.0%	1011	3.2%	0111	2.6%	0011	0.0%
0111	2.1%	0011	0.0%	1100	0.0%	1100	3.2%	0101	1.3%	0110	0.0%
1000	1.0%	1101	0.0%	1101	0.0%	0111	3.2%	1011	1.3%	1100	0.0%
1001	1.0%	0111	0.0%	0111	0.0%	1001	2.1%	1100	1.3%	1101	0.0%
1011	1.0%	1110	0.0%	1110	0.0%	1101	2.1%	1101	0.0%	1110	0.0%
1101	1.0%	1111	0.0%	1111	0.0%	1111	2.1%	1111	0.0%	1111	0.0%
n(人) 97		n(人) 32		n(人) 8		n(人) 94		n(人) 77		n(人) 7	

男・有配偶・30~39歳				女・有配偶・30~39歳			
正社員(公務含む)		非典型雇用		正社員(公務含む)		非典型雇用	
0001	40.7%	0001	30.8%	0001	24.8%	0001	20.7%
0101	14.8%	0000	23.1%	0100	10.9%	1011	9.7%
0100	10.7%	0111	23.1%	0101	10.9%	0100	8.8%
0000	7.9%	0011	15.4%	1001	9.9%	0011	8.8%
0011	6.2%	0100	7.7%	0111	8.9%	0101	8.4%
0111	4.5%	0010	0.0%	0011	7.9%	1001	7.5%
1001	3.1%	1000	0.0%	1101	6.9%	1101	7.5%
0110	3.1%	1001	0.0%	0000	5.0%	0010	6.6%
0010	2.8%	0101	0.0%	1111	5.0%	1000	6.2%
1111	2.4%	1010	0.0%	1000	3.0%	0111	3.1%
1101	1.7%	1011	0.0%	1011	2.0%	0000	2.6%
1011	1.0%	0110	0.0%	1100	2.0%	1010	2.6%
1000	0.3%	1100	0.0%	0010	1.0%	0110	2.6%
1100	0.3%	1101	0.0%	0110	1.0%	1111	2.6%
1110	0.3%	1110	0.0%	1110	1.0%	1110	1.3%
1010	0.0%	1111	0.0%	1010	0.0%	1100	0.9%
n(人) 290		n(人) 13		n(人) 101		n(人) 227	

図表 4-15 「人間関係」についての悩みの、相談チャンネルごとの選択割合
(2011年調査、30～39歳/20～29歳、%)

男性・無配偶・30～39歳			
2011年	正社員 (公務含)	非典型雇 用	無業、そ の他
家族	23.7%	28.1%	12.5%
職場関係	51.5%	34.4%	12.5%
友人	45.4%	25.0%	37.5%
恋人	18.6%	21.9%	0.0%
「0000」	17.5%	15.6%	37.5%
n(人)	97	32	8

女性・無配偶・30～39歳			
2011年	正社員 (公務含)	非典型雇 用	無業、そ の他
家族	36.2%	32.5%	42.9%
職場関係	46.8%	48.1%	14.3%
友人	58.5%	49.4%	57.1%
恋人	24.5%	15.6%	42.9%
「0000」	6.4%	7.8%	14.3%
n(人)	94	77	7

男性・無配偶・20～29歳			
2011年	正社員 (公務含)	非典型雇 用	無業、そ の他
家族	26.0	25.7	48.6
職場関係	49.1	39.4	22.9
友人	51.6	45.0	37.1
恋人	20.9	17.4	2.9
「0000」	10.8	13.8	17.1
n(人)	277	109	35

女性・無配偶・20～29歳			
2011年	正社員 (公務含)	非典型雇 用	無業、そ の他
家族	51.3	50.2	51.4
職場関係	54.0	42.8	14.3
友人	60.2	60.0	40.0
恋人	34.8	27.0	22.9
「0000」	4.3	7.4	17.1
n(人)	374	215	35

最後に、「経済的な問題」についての悩みであるが、この悩みについては、2006年調査でも2011年20代調査でも、相談相手として「家族」の存在が非常に大きいという結果が繰り返されてきた。無配偶の男女では、就業状態を問わず「1000」（家族のみ）が最も多くなり、有配偶では、他の悩みと同様に配偶者の存在が大きいことに加え、やはり「家族」の存在が大きいため「1001」（家族・配偶者）も多くなっていた。家族の存在の大きさは、配偶状態によらない顕著な特徴であった。しかし他方で、20代調査では、就業状態によらず無配偶の男女のすべてにおいて、「0000」（相手がいない）が2番目に多くなってもいた。

図表4-16および図表4-17をみると、30代調査では、基本的に上述のような特徴は保持されているものの、無配偶の正社員男性に関してのみ、「0000」（相手がいない）が「1000」（家族のみ）をわずかに上回り最も多くなっている。この悩みで家族が選ばれる割合が大きいことは、お金に関わる悩みは家族以外に相談しにくいという感覚が広く共有されていることを示していると思われるが、その家族にも相談できない場合には、相談する先がなくなってしまうということでもある。30代で家族に相談できないというのは、親が年を取ってしまった場合もあるだろうし、既に亡くなっている例もあるだろう。また、親がリタイアして経済的な問題の担い手として一線から降りている例もあるだろうし、そもそも親との連絡頻度が少なくなっている例もあるだろう。いずれの場合も、本人と親の加齢に伴い起こりうる事態であるが、それを代替するものとしては、有配偶の場合の配偶者以外はあまり選択肢として選ばれていないようである。その結果が、「0000」（相手がいない）の多さであると考えられる。

図表4-16 「経済的な問題（お金のこと）」についての悩みの相談ネットワーク
(2011年調査、30～39歳、%)

男・無配偶・30～39歳					女・無配偶・30～39歳						
正社員(公務含む)		非典型雇用		無業、その他	正社員(公務含む)		非典型雇用		無業、その他		
0000	31.5%	1000	44.4%	1000	41.7%	1000	40.0%	1000	41.8%	1001	33.3%
1000	28.3%	0000	16.7%	0000	33.3%	0000	17.5%	0000	19.8%	0000	22.2%
0100	7.6%	0001	11.1%	0010	16.7%	1001	8.8%	1001	7.7%	1000	22.2%
0010	4.3%	0100	8.3%	0001	8.3%	0010	6.3%	0010	6.6%	0010	11.1%
1110	4.3%	0010	5.6%	0100	0.0%	1010	6.3%	1010	5.5%	1111	11.1%
0001	3.3%	1001	5.6%	1001	0.0%	0100	5.0%	0001	4.4%	0001	0.0%
1001	3.3%	0101	2.8%	0101	0.0%	0001	3.8%	0100	4.4%	0100	0.0%
0110	3.3%	1010	2.8%	1010	0.0%	1011	3.8%	1100	3.3%	0101	0.0%
1111	3.3%	1100	2.8%	1011	0.0%	0101	2.5%	1011	2.2%	1010	0.0%
1010	2.2%	1011	0.0%	0011	0.0%	1100	2.5%	0011	2.2%	1011	0.0%
1011	2.2%	0011	0.0%	0110	0.0%	1110	2.5%	0110	1.1%	0011	0.0%
1100	2.2%	0110	0.0%	1100	0.0%	0111	1.3%	1110	1.1%	0110	0.0%
1101	2.2%	1101	0.0%	1101	0.0%	0011	0.0%	0101	0.0%	1100	0.0%
0011	1.1%	0111	0.0%	0111	0.0%	0110	0.0%	1101	0.0%	1101	0.0%
0111	1.1%	1110	0.0%	1110	0.0%	1101	0.0%	0111	0.0%	0111	0.0%
0101	0.0%	1111	0.0%	1111	0.0%	1111	0.0%	1111	0.0%	1110	0.0%
n(人)	92	n(人)	36	n(人)	12	n(人)	80	n(人)	91	n(人)	9

男・有配偶・30～39歳					女・有配偶・30～39歳				
正社員(公務含む)		非典型雇用			正社員(公務含む)		非典型雇用		
0001	55.5%	0001	42.1%		0001	48.6%	0001	42.2%	
1001	17.2%	0000	21.1%		1001	21.9%	1001	23.5%	
0000	6.4%	1001	10.5%		1000	9.5%	1000	9.3%	
1000	4.9%	1011	10.5%		0000	5.7%	0000	4.9%	
0101	2.6%	1000	5.3%		0011	4.8%	1011	4.5%	
0100	2.3%	0011	5.3%		0100	2.9%	0011	4.1%	
0011	2.3%	0111	5.3%		1111	2.9%	0101	2.6%	
0111	2.3%	0010	0.0%		0101	1.9%	1101	2.6%	
1101	2.0%	0100	0.0%		0010	1.0%	1010	1.9%	
1011	1.7%	0101	0.0%		1101	1.0%	1110	1.1%	
1111	1.2%	1010	0.0%		1010	0.0%	1111	1.1%	
1100	0.6%	0110	0.0%		1011	0.0%	0100	0.7%	
0010	0.3%	1100	0.0%		0110	0.0%	0010	0.4%	
1010	0.3%	1101	0.0%		1100	0.0%	0110	0.4%	
0110	0.3%	1110	0.0%		0111	0.0%	1100	0.4%	
1110	0.0%	1111	0.0%		1110	0.0%	0111	0.4%	
n(人)	344	n(人)	19		n(人)	105	n(人)	268	

図表4-17 「経済的な問題（お金のこと）」についての悩みの、相談チャンネルごとの
選択割合（2011年調査、30～39歳／20～29歳、%）

男性・無配偶・30～39歳				女性・無配偶・30～39歳			
2011年	正社員 (公務含む)	非典型雇 用	無業、そ の他	2011年	正社員 (公務含む)	非典型雇 用	無業、そ の他
家族	47.8%	55.6%	41.7%	家族	63.8%	61.5%	66.7%
職場関係	23.9%	13.9%	0.0%	職場関係	13.8%	9.9%	11.1%
友人	21.7%	8.3%	16.7%	友人	20.0%	18.7%	22.2%
恋人	16.3%	19.4%	8.3%	恋人	20.0%	16.5%	44.4%
「0000」	31.5%	16.7%	33.3%	「0000」	17.5%	19.8%	22.2%
n(人)	92	36	12	n(人)	80	91	9

男性・無配偶・20～29歳				女性・無配偶・20～29歳			
2011年	正社員 (公務含む)	非典型雇 用	無業、そ の他	2011年	正社員 (公務含む)	非典型雇 用	無業、そ の他
家族	59.4	64.3	59.5	家族	72.9	71.1	75.8
職場関係	29.2	22.9	7.1	職場関係	24.6	20.7	6.1
友人	27.8	27.1	21.4	友人	26.1	30.2	15.2
恋人	19.6	12.9	7.1	恋人	23.1	22.0	18.2
「0000」	14.6	17.1	26.2	「0000」	8.8	12.1	18.2
n(人)	281	140	42	n(人)	329	232	33

以上、4つの悩みごとに相談ネットワークの広がりについて検討してきた。2006年の調査での主要な発見であった、無配偶の男女における「職場関係の人を選ぶ割合が、「正社員>非典型雇用>無業」となる傾向」は、2011年20代調査では、いくつか曖昧になった面もあったものの、基調としてその傾向はおおむね保持されていた。

2011年30代調査の結果からは、無配偶の男女における「職場関係の人を選ぶ割合が、「正社員>非典型雇用>無業」となる傾向」は、無業のケース数が少ないため慎重であるべきとはいえ、再び明確になったといえるだろう。そしてそのような変化は、データをみる限り、正社員の側ではなく非典型雇用の側の変化（チャンネル数の減少）によるものである。少なくとも30代に関しては、職場が相談相手を供給する場として重要性をもっており、非典型雇用の人よりも正社員にとって、よりそうであるといえる。つまり、仕事を持っていないこと、そして仕事に就いていても正社員でないことは、その人の“世界”が広がらないことの重要な背景となっているようである。正社員といういわばフルメンバーシップを有していることで、はじめてさまざまな悩みの相談が職場の人間関係の中で可能になっているのが実状である。

また、30代調査の結果が示しているのは、20代に比べて全体として各相談チャンネルが選ばれている割合が少なくなっていることである。無配偶の人での「相手がない」という回答が増加していること、有配偶の人で「配偶者のみ」という回答が多いことは、30代では（仕事の状況や配偶状態に関係なく）加齢に伴う相談チャンネルの減少が確実に進行していることをうかがわせる。それについては、次の節でさらに検討する。

第5節 相談チャンネル数の状況

相談ネットワークの選択状況を検討した前節に続き、本節では、複数の相談チャンネルを利用しているかどうかという点に注目して分析する。前節でもある程度視野に入れて論じていたが、個々の悩みの相談相手の選択が、限られた相談チャンネルのみを選んでいるのか、それとも複数の相談チャンネルを選んでいるのかという点に焦点を合わせて検討する。有配偶者は上で検討してきたとおり、相談相手が配偶者に集中する傾向があることから、ここでは特に無配偶者に限って検討することにしたい。

個々の悩みに対する相談ネットワークのパターンを、相談チャンネル数によって集約し集計しなおしたのが図表4-18~21である。相談チャンネル数とは、4つの相談先（家族、職場関係、友人、恋人・配偶者）のうちのいくつを選択しているかである。たとえば、これらの表で相談チャンネル数が3の欄にある数値（%）は、「0111」「1011」「1101」「1110」の4パターンの相談ネットワークの合計割合である。そしてここでは、平均相談チャンネル数に注目し、また比較できるように、20代調査での平均相談チャンネル数も併記している。

「今の仕事」についての悩みの場合（図表4-18）、男女とも正社員の方が非典型雇用よりも相談チャンネル数が多い傾向がみられる。20代調査においては、男性で、正社員と非典型

雇用の間での相談チャンネル数の差はわずかであったが、30代調査ではその差は広がっており、「正社員＞非典型雇用＞無業」という傾向が再び明確になっていることはここでも確認できる。また、2006年調査でもみられた特徴であるが、全般に平均相談チャンネル数は女性の方が男性よりも多く、女性が男性よりも多チャンネルの相談ネットワークを有していることがわかる。なお女性の方が多いというこの点は、後述の他の悩みも含め4つの悩みすべてに共通している。

ただ、平均相談チャンネル数の数値に注目すると、20代に比べて30代での値がどれについても低くなっていることにも注意が必要である。「正社員＞非典型雇用」という傾向があるといっても、30代の正社員の平均相談チャンネル数は、20代の非典型雇用の平均相談チャンネル数よりも少ない値になっている。このことは、前節で述べた、30代では（仕事の状況や配偶状態に関係なく）加齢に伴う相談チャンネルの減少が確実に進行しているという可能性をより明確に示しているといえる。

図表4-18 今の自分の仕事や働き方についての悩みと相談チャンネル数
(30～39歳、%)

チャンネル数	男性・無配偶・正社員	男性・無配偶・非典型	男性・無配偶・無業その他	チャンネル数	女性・無配偶・正社員	女性・無配偶・非典型	女性・無配偶・無業その他
0	18.2%	19.5%	28.6%	0	9.4%	12.2%	30.0%
1	36.4%	46.3%	57.1%	1	33.3%	46.3%	30.0%
2	27.3%	29.3%	7.1%	2	31.3%	29.3%	20.0%
3	13.6%	4.9%	7.1%	3	21.9%	12.2%	10.0%
4	4.5%	0.0%	0.0%	4	4.2%	0.0%	10.0%
平均チャンネル数	1.50	1.20	0.93	平均チャンネル数	1.78	1.41	1.40
20～29歳	1.71	1.65	1.13	20～29歳	2.15	1.98	1.47
n(人)	110	41	14	n(人)	96	82	10

「これからの生き方」についての悩みの場合（図表4-19）も、「今の仕事」のときと同様に、男女とも平均相談チャンネル数は「正社員＞非典型雇用＞無業」となっており、20代調査の結果と比べても、その傾向は明確になっている。また、チャンネル数が0のケースの割合の高さ（特に男性の非典型雇用では4分の1を超えるほどの高い割合である）や、全体として平均相談チャンネル数が20代よりも少なくなっている点も注目される。

「人間関係」（図表4-20）についての悩みは、前二者と同様に男女とも平均相談チャンネル数は正社員の方が非典型雇用よりも多くなっている。平均相談チャンネル数が20代よりも少なくなっている点も共通である。

「経済的な問題」（図表4-21）は、既にみたように家族への集中度が高いこともあってやや他と傾向が異なることも予想されたが、結果としてはこれも、男女とも平均相談チャンネル

ル数は正社員の方が非典型雇用よりも多くなっている。平均相談チャンネル数が20代よりも少なくなっている点も共通であるが、非典型雇用の男性では平均相談チャンネル数が1を割り込むほどになっている。

図表4-19 これからの生き方や働き方についての悩みと相談チャンネル数
(30~39歳、%)

チャンネル数	男性・無配偶・正社員	男性・無配偶・非典型	男性・無配偶・無業その他	チャンネル数	女性・無配偶・正社員	女性・無配偶・非典型	女性・無配偶・無業その他
0	20.0%	26.8%	41.7%	0	9.5%	10.1%	36.4%
1	40.0%	39.0%	41.7%	1	31.4%	47.2%	18.2%
2	22.6%	31.7%	16.7%	2	36.2%	30.3%	27.3%
3	13.9%	2.4%	0.0%	3	21.9%	11.2%	18.2%
4	3.5%	0.0%	0.0%	4	1.0%	1.1%	0.0%
平均チャンネル数	1.41	1.10	0.75	平均チャンネル数	1.73	1.46	1.27
20~29歳	1.59	1.55	1.18	20~29歳	1.98	1.83	1.45
n(人)	115	41	12	n(人)	105	89	11

図表4-20 人間関係についての悩みと相談チャンネル数 (30~39歳、%)

チャンネル数	男性・無配偶・正社員	男性・無配偶・非典型	男性・無配偶・無業その他	チャンネル数	女性・無配偶・正社員	女性・無配偶・非典型	女性・無配偶・無業その他
0	17.5%	15.6%	37.5%	0	6.4%	7.8%	14.3%
1	44.3%	59.4%	62.5%	1	43.6%	49.4%	28.6%
2	23.7%	25.0%	0.0%	2	29.8%	32.5%	42.9%
3	10.3%	0.0%	0.0%	3	18.1%	10.4%	14.3%
4	4.1%	0.0%	0.0%	4	2.1%	0.0%	0.0%
平均チャンネル数	1.39	1.09	0.63	平均チャンネル数	1.66	1.45	1.57
20~29歳	1.48	1.28	1.11	20~29歳	2.00	1.80	1.29
n(人)	97	32	8	n(人)	94	77	7

図表 4-21 経済的な問題（お金のこと）についての悩みと相談チャンネル数
(30～39 歳、%)

チャンネル数	男性・無配偶・正社員	男性・無配偶・非典型	男性・無配偶・無業その他	チャンネル数	女性・無配偶・正社員	女性・無配偶・非典型	女性・無配偶・無業その他
0	31.5%	16.7%	33.3%	0	17.5%	19.8%	22.2%
1	43.5%	69.4%	66.7%	1	55.0%	57.1%	33.3%
2	12.0%	13.9%	0.0%	2	20.0%	19.8%	33.3%
3	9.8%	0.0%	0.0%	3	7.5%	3.3%	0.0%
4	3.3%	0.0%	0.0%	4	0.0%	0.0%	11.1%
平均チャンネル数	1.10	0.97	0.67	平均チャンネル数	1.18	1.07	1.44
20～29歳	1.36	1.27	0.95	20～29歳	1.47	1.44	1.15
n(人)	92	36	12	n(人)	80	91	9

無業のケース数が多くないなど、いくつかの理由で統計的な有意性の検討を十分に行えないものもあり、あくまでも大まかな指摘として述べることにならざるを得ないが、その限りにおいて以上から見出されたことを次のようにまとめることができる。第一に、過去の調査結果から見出された、正社員よりも非典型雇用の方が、そしてそれよりも無業の方が、相談ネットワークの平均相談チャンネル数が少数になる傾向は、2011年30代調査の結果からも基本的に見出すことができる。むしろ20代調査のときよりも、その傾向は明確である。このことから、非典型雇用や無業であることによって、単に相談チャンネルの一つとしての職場関係の分が欠けやすくなったり、さらには相談ネットワーク全体のあり方が多方向的でない形でつくられたりする可能性は、20代以上に30代においてこそ無視できないものである。第二に、全体として各相談チャンネルが選ばれている割合は、20代に比べて30代では少なくなっており、家族・職場関係・友人・恋人のいずれにも相談相手をもたない人たちも明確に増加しているなど、30代の相談ネットワーク自体が20代に比べて縮小ないし減少していることが確認できる。

データからわかるのは、女性よりも男性で、正社員よりも非典型雇用で、20代よりも30代で、相談ネットワークは小規模化しているということである。そのことは、たとえば「30代の非典型雇用の男性」が、相対的に相談ネットワークが小規模化しやすい存在であるということでもある。ただ、そうした存在に注意を払う必要があるのも事実だが、20代が3代になることがもつインパクトにこそまず注意すべきであろう。なぜなら、既にみたように、女性であれ正社員であれ、そして有配偶者であれ、加齢に伴う相談ネットワークの小規模化からは逃れられないことが浮かび上がっているからである。

有配偶者の場合も、配偶者の存在が大きいため相談ネットワークが「0000」（相手がいない）になることは少ないものの、加齢に伴う影響を受けることに変わりはない。また、有配偶者では、すべての悩みに関して相談ネットワークのパターンとして最も多かったのは「0001」

(配偶者のみ)であったが、「0001」とは結局、何らかの事情が生じて配偶者が相談相手に選べなくなったとき、即座に「0000」(相手がいない)になってしまうということでもある。その意味で、有配偶者と無配偶者の状況の差は、配偶者の存在というその一点にすぎず、根本的に異なっているわけではないともいえよう。

無論、ここでいう「加齢」はあくまで20代と30代の間の比較という限定的な検討の中でみえてきたものにすぎない。ただ、その後40代・50代と進んでいく中で、相談ネットワークが反転して増えていく契機を具体的に考えることは容易ではない。藤森(2010)などによって指摘されている、日本社会における中高年単身者の将来的な増加の可能性まで視野に入れるならば、30代の時点で見えてくるこの様相にも、何らかの含意を見出すこともできるだろう。

第6節 過去の相談経験の現在への影響

ここまでの議論では、相談ネットワークや相談チャンネル数について、主に現在の就業状況との関連に注目しながら検討してきた。この節では視点を改めて、過去の相談経験の現在への影響という視点から考えていく。

「悩みを相談する」という行為自体、人によってはある種のハードルの高さを感じさせうることであり、それができるということは、悩みを相談できるほどの人間関係を有していること以外にも、何か条件ないし背景があるとも考えることもできるだろう。前節までは、悩みを人に相談する／しないということが、現在その人が置かれた状況とどのように関連している／いないのかという関心から分析を加えてきた。しかし、悩みを人に相談するということが、現在だけではなく、過去の経験や行動によって規定されている可能性もあるのではないだろうか。

そこでここでは、「過去に悩みを人に相談した経験」に注目する。現在や将来のことについて人に相談したことが以前にあれば、現在においても、悩みを人に相談することのハードルが下がることにつながっているのではないだろうか。そのような観点から、過去の相談経験が、現在の相談ネットワークのあり方にどう影響しているかを探ることにしたい。

2011年30代調査には、過去の相談経験についてたずねた質問項目がいくつか含まれている。ここで注目するのは、そのうちの、最後に在学した学校を卒業(中退)した直後の就業状態が、正社員・公務員以外だった者に対してなされた、「卒業(中退)を前にして、その後のことについて誰かに相談しましたか」という質問である。つまり、学卒時・中退時に典型雇用に至らなかった人を対象に、「卒業(中退)後のこと」についての相談経験と相談手をたずねるものである。相談相手の選択肢は、前節以前で検討した質問項目と同一である。

あらかじめ述べておかなければ、この質問項目をたずねているのは、学卒時・中退時に典型雇用に至らなかった人に限られており(男女あわせて640ケース)、学卒後すぐに典型雇用に移行したケースはそもそもデータが存在しない。そのため、分析としては限定的なものにと

どまっている。また、同じ理由で該当するケース数が十分に多いわけではないことから、ここでも統計的な有意性の検討を十分に行えないことがある点も留意されたい。

では実際に、過去の相談経験、具体的には学卒前の相談経験・相談相手と、現在の相談ネットワークの関連をみていくことにしよう。後者については、相談ネットワークのあり方そのものを用いると煩雑になるため、相談チャンネル数を用いて検討することにしたい。また、紙幅を考慮して、すべての悩みとすべての相談相手について検討するのは避け、ここでは、主要な悩みである「今の自分の仕事や働き方についての悩み」および「これからの生き方や働き方についての悩み」の2つ、および特に注目される結果が得られた「親」「学校の先生」「誰もいない」の3つの相談相手について分析結果を示すことにする。

まず、図表4-22と図表4-23は、学卒（中退）前に卒業（中退）後のことについて親と相談したかどうかと、現在の2つの悩みについての相談チャンネル数との関連を、男女別に調べたものである。いずれについても、当時親に相談した人（各図表で「yes」と記したカテゴリー）の方が、現在の相談チャンネル数も多くなっている¹¹。

図表4-22 学卒前の相談経験と、今の自分の仕事や働き方についての悩みの
相談チャンネル数の関連（30～39歳、相談相手＝親）

(男)	学卒前にその後のこと を親に相談した		(女)	学卒前にその後のこと を親に相談した		
	チャンネル数	yes		no	チャンネル数	yes
	0	7.8%	14.1%	0	1.4%	17.6%
	1	42.2%	49.4%	1	37.3%	44.7%
	2	29.3%	24.7%	2	33.1%	21.2%
	3	17.2%	10.6%	3	25.4%	15.3%
	4	3.4%	1.2%	4	2.8%	1.2%
	平均チャンネル数	1.66	1.35	平均チャンネル数	1.91	1.38
	n(人)	116	85	n(人)	142	85

¹¹ 平均チャンネル数についてそれぞれt検定を行ったところ、「今の自分の仕事や働き方」については、男性で5%水準、女性で0.1%水準で有意差が検出された。「これからの生き方や働き方」については、男女とも1%水準で有意差が検出された。

図表 4-23 学卒前の相談経験と、これからの生き方や働き方についての悩みの
相談チャンネル数の関連 (30~39 歳、相談相手=親)

(男)	学卒前にその後のことを親に相談した		(女)	学卒前にその後のことを親に相談した		
	チャンネル数	yes		no	チャンネル数	yes
	0	9.5%	18.6%	0	3.1%	17.0%
	1	42.2%	48.8%	1	44.1%	42.6%
	2	34.5%	29.1%	2	35.4%	28.7%
	3	10.3%	1.2%	3	14.9%	10.6%
	4	3.4%	2.3%	4	2.5%	1.1%
	平均チャンネル数	1.56	1.20	平均チャンネル数	1.70	1.36
	n(人)	116	86	n(人)	161	94

同様に、図表 4-24 と図表 4-25 は、学卒（中退）前に卒業（中退）後のことについて学校の先生と相談したかどうかと、現在の 2 つの悩みについての相談チャンネル数との関連を、男女別に調べたものである。これもまた、いずれについても、当時学校の先生に相談した人の方が、現在の相談チャンネル数も多くなっている¹²。

図表 4-24 学卒前の相談経験と、今の自分の仕事や働き方についての悩みの
相談チャンネル数の関連 (30~39 歳、相談相手=学校の先生)

(男)	学卒前にその後のことを学校の先生に相談した		(女)	学卒前にその後のことを学校の先生に相談した		
	チャンネル数	yes		no	チャンネル数	yes
	0	3.8%	11.4%	0	0.0%	9.0%
	1	53.8%	44.0%	1	34.2%	41.3%
	2	23.1%	28.0%	2	28.9%	28.6%
	3	7.7%	15.4%	3	26.3%	20.6%
	4	11.5%	1.1%	4	10.5%	0.5%
	平均チャンネル数	1.69	1.51	平均チャンネル数	2.13	1.62
	n(人)	26	175	n(人)	38	189

¹² ただし、男性は「今の自分の仕事や働き方」については有意差が検出されず、「これからの生き方や働き方」についての悩みのみ 10%水準で有意であった。これに対して、女性ではどちらの悩みについても 1%水準で有意であった。

図表 4-25 学卒前の相談経験と、これからの生き方や働き方についての悩みの
相談チャンネル数の関連 (30~39 歳、相談相手=学校の先生)

(男) 学卒前にその後のことを学 校の先生に相談した			(女) 学卒前にその後のことを学 校の先生に相談した		
チャンネル 数	yes	no	チャンネル 数	yes	no
0	3.8%	14.8%	0	0.0%	9.9%
1	46.2%	44.9%	1	40.5%	44.1%
2	30.8%	32.4%	2	31.0%	33.3%
3	11.5%	5.7%	3	21.4%	11.7%
4	7.7%	2.3%	4	7.1%	0.9%
平均チャ ンネル数	1.73	1.36	平均チャ ンネル数	1.95	1.50
n(人)	26	176	n(人)	42	213

最後に、図表 4-26 と図表 4-27 は、学卒 (中退) 前に卒業 (中退) 後のことについて誰にも相談しなかったかどうかと、現在の 2 つの悩みについての相談チャンネル数との関連を、男女別に調べたものである。これに関しては、当時誰にも相談しなかった人 (各図表で「yes」と記したカテゴリー) で現在の相談チャンネル数が少なくなっている¹³。つまり、相手は誰であれ、当時相談した者の方が現在の相談チャンネル数が多くなっているということである。

図表 4-26 学卒前の相談経験と、今の自分の仕事や働き方についての悩みの
相談チャンネル数の関連 (30~39 歳、相談相手=誰にも相談しなかった)

(男) 学卒前にその後のことを誰 にも相談しなかった			(女) 学卒前にその後のことを誰 にも相談しなかった		
チャンネル 数	yes	no	チャンネル 数	yes	no
0	19.2%	7.4%	0	29.8%	1.7%
1	51.9%	43.0%	1	42.6%	39.4%
2	19.2%	30.2%	2	17.0%	31.7%
3	9.6%	16.1%	3	8.5%	25.0%
4	0.0%	3.4%	4	2.1%	2.2%
平均チャ ンネル数	1.19	1.65	平均チャ ンネル数	1.11	1.87
n(人)	52	149	n(人)	47	180

¹³ 「今の自分の仕事や働き方」については、男女とも 1%水準で、「これからの生き方や働きか」については、男性で 1%水準、女性で 0.1%水準で有意差が検出された。

図表 4-27 学卒前の相談経験と、これからの生き方や働き方についての悩みの
相談チャンネル数の関連 (30~39 歳、相談相手=誰にも相談しなかった)

(男)	学卒前にその後のことを誰にも相談しなかった		(女)	学卒前にその後のことを誰にも相談しなかった		
	チャンネル数	yes		no	チャンネル数	yes
	0	24.5%	9.8%	0	26.4%	3.5%
	1	42.9%	45.8%	1	35.8%	45.5%
	2	30.6%	32.7%	2	30.2%	33.7%
	3	2.0%	7.8%	3	5.7%	15.3%
	4	0.0%	3.9%	4	1.9%	2.0%
	平均チャンネル数	1.10	1.50	平均チャンネル数	1.21	1.67
	n(人)	49	153	n(人)	53	202

以上のように、学卒（中退）前に卒業（中退）後のことについての相談経験・相談相手と、現時点での悩みの相談相手のチャンネル数の間に、いくつかの形で有意な関連を見出すことができる。すなわち、当時親や学校の先生に相談した人は、現在より多くの相談チャンネル数を有しており、また当時誰にも相談しなかった人は、現在の相談チャンネル数もより少なくなっている。過去に将来のことについて相談した経験があれば（特に、親や学校の先生など、自分よりも年長で、身近ではあるが自分とは明確に立場や視点が異なる相手に相談した経験があれば）、その後に広い相談ネットワークを持つことにつながりうるということである。ここでの回答者が 30~39 歳であることを考えると、学卒の時期は大卒の場合でも最短で 8 年ほど経過しており、学卒から 10 年以上経過しているケースも含まれているはずである。長時間の経過にもかかわらず、このような関連がみられるということは、注目される結果である。

ところで、学卒前の相談経験・相談相手をたずねるこの質問項目は、上述したとおり、学卒時に典型雇用に至らなかった回答者のみを対象とするものであった。では、学卒（中退）後にこの回答者たちが歩んだキャリアは、どのようなものであったのだろうか。ここではキャリア類型の変数（非典型一貫／他形態から正社員／自営・家業／現在無業）との関連を調べてみた。そこで見出されたのが、次の 2 つの関連である。

第一に、学卒前に「学校の先生」と相談した場合、女性の回答者に関しては、「他形態から正社員」の割合が大きくなっている（図表 4-28）。第二に、学卒前の相談相手が「誰もいなかった」場合、男性の回答者に関しては、「他形態から正社員」の割合が小さいことがわかった（図表 4-29）¹⁴。

¹⁴ いずれも、1%水準で有意。

図表 4-28 学卒前の「学校の先生」との相談の有無と、キャリア類型の関連
(30~39 歳、女性のみ)

	キャリア類型				合計	n(人)
	非典型一貫	他形態から 正社員	自営・家業	現在無業		
学卒前に学校の先生 に相談した	50.0%	30.8%	11.5%	7.7%	100.0%	52
学卒前に学校の先生 に相談しなかった	60.7%	19.3%	19.3%	0.7%	100.0%	290

注：女性の回答のみ

図表 4-29 学卒前の相談相手が「誰もいない」かと、キャリア類型の関連
(30~39 歳、男性のみ)

	キャリア類型				合計	n(人)
	非典型一貫	他形態から 正社員	自営・家業	現在無業		
学卒前に(誰かに)相 談した	11.9%	57.6%	28.1%	2.4%	100.0%	210
学卒前に相談相手が 誰もいなかった	28.4%	46.6%	19.3%	5.7%	100.0%	88

注：男性の回答のみ

これらの結果は、片方の性別でのみ、かつわずかな相談の形で関連が見出されただけであり、そのため限定的ないし間接的なつながりにすぎない可能性は残るのは確かであるが、そのような限定された議論とはいえ、学卒時に非典型雇用であっても、学卒前の相談経験が、その後のキャリアにおける正社員化に、何らかの形でつながりがありうることを示唆するものである。つまり、人に自分のこれからについて相談するという経験は、その時点にだけ意味をもつものではなく、時間の経過を経ても一定の効果を持続的に及ぼす可能性を有している（少なくとも、学卒時に正社員・公務員になれなかった人の中には、そういうケースがありうる）と思われる¹⁵。その効果を過大に見積もることには慎重であるべきだが、学卒前にその後のキャリアをめぐって相談をするという経験ができるよう、その機会をさまざまな形で増やし保障していくことに、一定の意味があるとはいえるのではないだろうか。

¹⁵ なお、上記の結果に関しては、何らかのコミュニケーションスキルを有することが影響している可能性もあることから、「誰とでもすぐに仲良くなれる」という質問項目の回答によってコントロールして分析を試みた。統計的に厳密な議論をするにはケース数が少ないものの、少なくとも基本的な傾向として、その結果に変わりはないと思われる。

第7節 行政サービスや公的支援の活動状況

前節までの議論では、「悩みの相談相手」に照準してきたが、それと関連するものとして、本節では補論的に、個々人の悩みやニーズに応えるような制度的なサービスや支援に注目し、そうしたサービスや支援を求めることがどの程度なされているかについて、ごく簡単に結果を概観する。具体的に検討する質問項目は、「あなたは次のような行政サービスや公的な支援を活用したことがありますか」として、次の中からあてはまるものを選んでもらうというものである。選択肢（複数回答）は、「奨学金・授業料免除・失業手当・ハローワーク・若者サポートステーション・ジョブカフェ・国または自治体の職業訓練・生活保護・その他」で、該当するものがない場合は「どれも活用したことはない」を選ぶ形である。

個々の選択肢がどのくらいの割合で選ばれているのかを示したのが、図表4-30である。選ばれている割合が多いのは、奨学金・失業手当・ハローワークの3つである。「どれも活用したことはない」という回答の割合は、男性では約6割、女性では5割弱となっている。

図表4-30 行政サービスや公的支援の利用状況（%）

	全体	男性	女性
奨学金	12.8	14.1	11.4
授業料免除	1.7	1.7	1.8
失業手当	22.9	16.9	29.4
ハローワーク	29.5	23.3	36.2
若者サポステ	0.2	0.3	0.0
ジョブカフェ	0.4	0.4	0.3
職業訓練	2.2	2.0	2.4
生活保護	1.1	0.4	1.8
その他	0.8	0.6	0.9
どれもない	54.5	60.4	48.1

奨学金を選んだ回答者の特徴を概略的に述べるならば、実家はあまり豊かではない人が多いが、学歴は大卒の割合が大きく、現在は正社員である割合が大きい。経済的に豊かではない人が大学進学に際して奨学金を利用し、大卒であることによって正社員の割合も高くなる、という関係があることがうかがえる。奨学金の利用の有無とキャリア類型の関連をみても（図表4-31）、奨学金を利用した人で多くなっているのが「正社員定着」「他形態から正社員」で、少ないのが「正社員から非典型」「非典型一貫」となっており、上述の関係と呼応する結果となっているといえる。

図表 4-31 奨学金の利用の有無とキャリア類型

(奨学金)	正社員 定着	正社員 転職	正社員 から非典 型	正社員 一時他 形態	非典型 一貫	非典型 一時正 社員	他形態 から正社 員	自営・家 業	現在無 業	その他・ 不明	合計
男性・活用経験なし	27.1%	21.8%	3.9%	7.7%	3.8%	1.8%	14.4%	16.6%	1.6%	1.4%	100.0%
男性・活用経験あり	37.5%	19.4%	0.7%	7.6%	1.4%	0.0%	20.8%	6.9%	3.5%	2.1%	100.0%
女性・活用経験なし	11.8%	5.0%	31.9%	5.2%	15.1%	8.1%	6.5%	14.6%	1.1%	0.7%	100.0%
女性・活用経験あり	14.8%	8.3%	25.0%	4.6%	8.3%	6.5%	13.9%	13.9%	4.6%	0.0%	100.0%

失業手当やハローワークについては、男性よりも女性の方が選んでいる人の割合が大きくなっている。図表 4-32 および図表 4-33 に示すとおり、利用者の方が「正社員定着」の割合が小さく、「正社員から非典型」「正社員一時他形態」「非典型一時正社員」「他形態から正社員」(男性のみ)の割合が大きいことがわかる。失業手当やハローワークによるものとはこれだけからはいえないものの、失業手当やハローワークが正社員化にとって一定のプラスの影響を及ぼしている可能性がうかがえると言うことはできよう。

図表 4-32 失業手当の利用の有無とキャリア類型

(失業手当)	正社員 定着	正社員 転職	正社員 から非典 型	正社員 一時他 形態	非典型 一貫	非典型 一時正 社員	他形態 から正社 員	自営・家 業	現在無 業	その他・ 不明	合計
男性・活用経験なし	33.5%	20.5%	2.8%	6.6%	3.4%	0.8%	14.4%	15.2%	1.4%	1.4%	100.0%
男性・活用経験あり	4.6%	26.0%	6.4%	13.3%	3.5%	5.2%	19.7%	15.6%	4.0%	1.7%	100.0%
女性・活用経験なし	16.8%	6.7%	24.1%	4.3%	17.3%	6.9%	8.5%	13.1%	1.6%	0.6%	100.0%
女性・活用経験あり	0.7%	2.2%	48.0%	7.2%	7.2%	10.4%	4.7%	17.9%	1.1%	0.7%	100.0%

図表 4-33 ハローワークの利用の有無とキャリア類型

(ハローワーク)	正社員 定着	正社員 転職	正社員 から非典 型	正社員 一時他 形態	非典型 一貫	非典型 一時正 社員	他形態 から正社 員	自営・家 業	現在無 業	その他・ 不明	合計
男性・活用経験なし	35.8%	20.2%	2.8%	5.5%	2.8%	1.0%	13.9%	15.8%	1.1%	1.0%	100.0%
男性・活用経験あり	4.6%	25.6%	5.5%	15.1%	5.5%	3.4%	19.7%	13.4%	4.2%	2.9%	100.0%
女性・活用経験なし	17.3%	6.6%	25.2%	4.1%	16.5%	6.1%	7.6%	14.9%	1.0%	0.7%	100.0%
女性・活用経験あり	2.9%	3.2%	41.6%	7.0%	10.5%	11.0%	7.0%	14.0%	2.3%	0.6%	100.0%

第 8 節 おわりに

以上の考察から得られた主な知見を、以下にまとめる。

第一に、過去の調査結果から見出された、正社員よりも非典型雇用の方が、そしてそれよりも無業の方が、相談ネットワークの平均相談チャンネル数が少数になる傾向は、2011 年 30 代調査の結果からも基本的に見出すことができる。むしろ 20 代調査のときよりも、その傾向は明確である。このことから、非典型雇用や無業であることによって、単に相談チャンネルの一つとしての職場関係の分が欠けやすくなったり、さらには相談ネットワーク全体のあり方が多方向的でない形でつくられたりする可能性は、20 代以上に 30 代においてこそ無視できないものである。

第二に、全体として各相談チャンネルが選ばれている割合は、20 代に比べて 30 代では少

なくなっており、家族・職場関係・友人・恋人のいずれにも相談相手をもたない人たちも明確に増加しているなど、30代の相談ネットワーク自体は20代に比べて縮小ないし減少している。

第三に、過去の相談経験、具体的には学卒（中退）前に卒業（中退）後のことについて相談した経験は、それから時間が経過した、現時点の相談ネットワークのあり方にも影響を与えている可能性が見出された。そして、部分的ないし間接的なつながりにすぎない可能性は残るものの、特に学卒時に正社員・公務員になれなかった人に関して、学卒前の相談経験が、その後のキャリアにおける正社員化に、何らかの形でつながっている可能性も確認された。人に自分のこれからについて相談するという経験は、その時点にだけ意味をもつものではなく、時間の経過を経ても一定の効果を持続的に及ぼす可能性を有している。

2011年20代調査の報告論文（久木元 2012）において、「20代でキャリアが何らかの意味で確立されるとは限らなくなり、むしろ20代という期間が全体としてキャリア探索期ないしキャリア形成期になった」可能性を指摘した。その20代に続く30代という時期は、キャリアが確立される時期となっていたのだろうか。確かに有配偶者の割合は20代に比べて高く、正社員・公務員の割合も（少なくとも男性では）高まっており、その限りで「確立」を見出すこともできるかもしれない。しかしそれ以上に今回の結果が示しているのは、30代になることでむしろ確かさが今後揺らいでいく、そうした揺らぎの萌芽のようなものの存在でもあるといえよう。

久木元（2012）においては、次のようにも述べていた。すなわち、「20代という期間が全体としてキャリア探索期ないしキャリア形成期になった」ということは、一度正社員になったからといって何らかのゴールや社会的安定にたどりつくとは限らないということである。それはすなわち、そうした過程の中で、相談ネットワークも形成されたり衰退したりするということである」。相談ネットワークに関しては、30代になってからの新たな「形成」の契機はまだ明確には見出せていないが、「衰退」につながりうる傾向は確認することができた。今後さらに加齢が進んでいく中で、相談ネットワークあるいはソーシャル・ネットワーク全般がどのように展開していくのかは、注視する必要があるといえるだろう。

その中で、過去の相談経験が現在の相談ネットワークに影響を及ぼしている可能性の発見は、ソーシャル・ネットワークの形成の契機が予想以上に複雑であることを示唆するものであった。キャリア探索期が長く続いていくのであるならば、学卒時に限らず、自らの悩みを人に相談できる回路をさまざまな形で形成できるようにすることは、重要な意味をもつといえる。そのような意味で、今回の30代の調査結果は、若年層の問題と従来みなされていたものが、人生全域の問題に展開しつつある状況を示すものであったのかもしれない。「若者の包括的な移行支援」と表現されていたものに迫るためには、そこまでの広いビジョンを持つことが求められているのではないだろうか。

文献

- 久木元真吾, 2006, 「若者のソーシャル・ネットワークと就業・意識」労働政策研究・研修機構編『大都市の若者の就業行動と移行過程——包括的な移行支援に向けて』労働政策研究・研修機構, 94-121.
- 久木元真吾, 2007, 「広がらない世界——若者の相談ネットワーク・就業・意識」堀有喜衣編『フリーターに滞留する若者たち』勁草書房, 129-171.
- 久木元真吾, 2012, 「若者のソーシャル・ネットワークの状況——推移と変化」労働政策研究・研修機構編『大都市の若者の就業行動と意識の展開——「第3回 若者のワークスタイル調査」から』労働政策研究・研修機構, 122-150.
- 藤森克彦, 2010, 『単身急増社会の衝撃』日本経済新聞出版社.
- 毎日新聞「リアル 30's」取材班, 2012, 『リアル 30's——“生きづらさ”を理解するために』毎日新聞社.